小暮地区遺跡群

広面遺跡

平成２年度県営ほ場整備事業嶺地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書

１９９２

群馬県勢多郡富士見村教育委員会

序　　文

富士見村は、赤城山の南西麓に位置し、西に榛名山、妙義山を望み、南に西上州の山々、さらには遠く富士山が見えるということが村名の由来になったように、豊かな自然に囲まれた風光明媚な地であります。また、赤城山の南麓から南西麓にかけては、広く遺跡の宝庫として知られており、近年の発掘調査の増加によって、具体的な歴史事象が次第に明らかにされつつ有ります。

農業を主産業とする富士見村は、農業を巡る環境の変化に伴い、平成元年度から県営嶺地区の圃場整備事業を行ってまいりましたが、今回の調査はその3年次事業に伴い行われたものであります。

必ずしも十分な時間と費用を掛けて行ったわけではありませんが、これまでの調査と同様に、今回の発掘調査でも多大な成果が得られ、富士見村の歴史に新たな事実を書き加えることができました。さらには、本書によって、富士見村だけにとどまらず、広く歴史の解明にこの成果が活用していただければ何よりの幸いと思います。

最後に、発掘調査にあたりご尽力いただいた関係諸機関、地権者の方々、さらには、現場で調査に携わった作業員の皆様に心より感謝申し上げ、序といたします。

平成4年3月

富士見村教育委員会

教育長　鈴　木　清　茂

例　　言

1．本書は県営ほ場整備事業に伴い事前調査を行った群馬県勢多郡富士見村大字小暮に所在する広面遺跡の発掘調査の概要報告書である。

2．発掘調査は平成２年５月10日から７月28日まで行った。
　整理作業並びに報告書刊行作業は平成３年６月１日から平成４年３月31日まで行った。

3．発掘調査及び整理・報告書作成作業は、国・県補助金、村費及び前橋土地改良事務所の委託金により実施したものである。

4．発掘調査組織は以下のとおりである。

教育長	鈴木清茂	
社会教育課長	狩野　透	（調整事務）
〃　係長	本多幸一	（　〃　）
〃　文化財係	羽鳥政彦	（調査担当）

5．本書の編集・執筆は羽鳥が行ったが、図面トレースの一部は技研測量設計㈱の協力を得た。

6．出土遺物、資料類は一括して富士見村教育委員会に保管してある。

7．発掘調査及び整理作業にあたり、多大のご指導ご協力を賜った関係諸機関、諸氏に心より感謝申し上げます。

凡　　例

1．挿図縮尺は基本的に以下のとおりである。

遺構	竪穴住居跡	1/80	遺物	完形、復元実測	1/4
	土坑	1/40		土器片拓本	1/3

2．遺構番号は基本的に調査時点の物を用いている。
　土坑は各区毎に付している。（例：Ａ区のＪ１号土坑はＡ―Ｊ１号土坑と表記）
　それ以外の遺構は遺跡内で通し番号となっている。

3．遺構図方位記号は座標北を表している。

4．第２図は建設省国土地理院発行の２万５千分の１地形図（渋川）を加筆して使用した。

目　　次

例言・凡例
目　　次
図版目次

I　発掘調査の経緯
1．発掘調査に至る経緯…… 1
2．発掘調査の経過…… 1
3．調査地の位置と周辺の遺跡…… 1
4．遺跡の立地…… 3
5．調査の方法…… 3
6．土層堆積状況…… 3

II　検出された遺構と遺物
1．概　　要…… 7
2．縄文時代の竪穴住居跡…… 7
3．縄文時代の土坑……11
4．縄文時代の出土土器……12
5．平安時代の竪穴住居跡……26

III　まとめにかえて ……27

図　版　目　次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡…… 2
第２図　遺跡の地形と調査区配置図…… 4
第３図　広面遺跡全体図(1)　Ａ・Ｄ区…… 5
第４図　　〃　　(2)　Ｂ・Ｃ・Ｅ区… 6
第５図　Ｊ２号住居跡…… 7
第６図　Ｊ３号住居跡…… 8
第７図　Ｊ４号住居跡…… 9
第８図　Ｊ５号住居跡……10
第９図　Ａ－Ｊ１号土坑……11
第10図　Ａ－Ｊ２号土坑……11
第11図　Ｊ１Ａ号住居跡出土遺物……13
第12図　Ｊ２号住居跡出土遺物……14
第13図　Ｊ３号住居跡出土遺物(1)……15
第14図　　〃　　(2)……16
第15図　　〃　　(3)……17
第16図　Ｊ４号住居跡出土遺物……18
第17図　Ｊ５号住居跡出土遺物(1)……19
第18図　　〃　　(2)……20
第19図　　〃　　(3)……21
第20図　　〃　　(4)……22
第21図　Ｊ６Ａ号住居跡出土遺物……23
第22図　Ｊ７号住居跡出土遺物……24
第23図　Ａ－Ｊ１号土坑出土遺物……25
第24図　１号住居跡……26
第25図　２号住居跡……26

写真図版目次

ＰＬ１　広面遺跡全景
ＰＬ２　Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ区全景
ＰＬ３　Ｊ１～Ｊ５号住居跡
ＰＬ４　Ｊ６～Ｊ８号住居跡
ＰＬ５　Ａ区土坑(1)
ＰＬ６　　〃　(2)
ＰＬ７　Ｂ・Ｃ区土坑
ＰＬ８　Ｄ区土坑
ＰＬ９　平安住居跡、溝跡など
ＰＬ10　Ｅ区（４号溝）

Ⅰ　発掘調査の経緯

1．発掘調査に至る経緯

ここに報告する小暮地区遺跡群広面遺跡は、平成元年度から開始された県営嶺地区ほ場整備の平成２年度事業に伴って発掘調査を行ったものである。

県営嶺地区ほ場整備事業は前橋市の嶺地区を中心に、一部富士見村の南東部を含む面積103haで計画された。

平成元年の後半になって、前橋土地改良事務所から富士見村内の小暮地区で、平成２年度より面工事を開始したい旨連絡があった。これにより、事業実施予定地区の遺物散布調査を行い、年度末に試掘調査を行い、２年度調査の計画を立てた。

2．調査の経過

本調査の区域は工事計画と試掘調査の成果を合わせて検討した結果、工事予定地の道水路を主体として、一部切り土が予想される部分も調査を行うこととした。発掘調査は平成２年の５月10日に開始した。

調査はＡ区から開始した。重機による表土剝ぎの進捗に伴い遺構検出作業を行い、順次遺構の調査をＡ区→Ｂ区→Ｃ区→Ｄ区→Ｅ区と進めていったが、個々の調査区の範囲が狭いため、いくつかの調査区を同時に調査するような状況も生じた。

６月中旬の田植え時期になり、水揚げが始まると、遺跡内の各所から湧き水が出はじめ、出水対策が必要になった。急遽排水ポンプを導入したが、調査の進捗ははかばかしくなかった。また、梅雨時期でもあるため作業がまともに行えない日々が続いた。

７月になっても状況は同様であったが、わずかずつながらも調査は進んでいった。

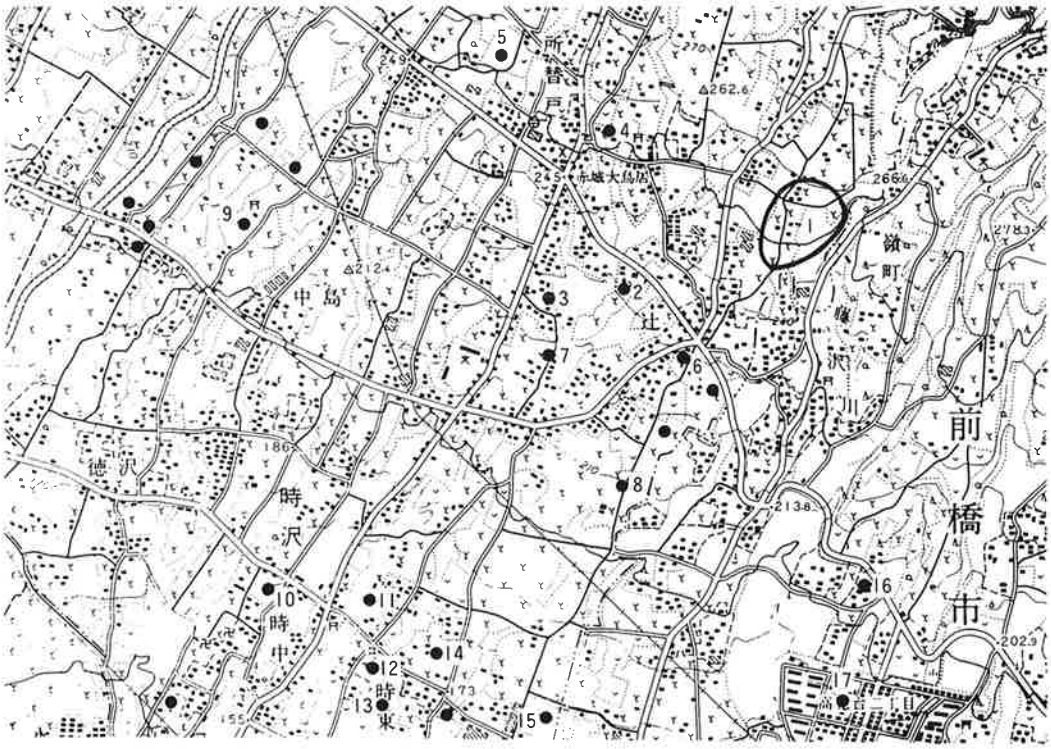
７月28日足下からの湧き水と、頭上からの梅雨の長雨にたたられ、泥だらけになりながらの調査がようやく終わった。

3．調査地の位置と周辺の遺跡

富士見村は赤城山の南西麓にあり、山頂までを含む狭長な村である。前橋市の北方に位置し、東に大胡町、宮城村、西に北橘村等が接している。標高は南端の約150mから山頂の1828mまで

標高450m前後の傾斜変換点を境として、北東部の山岳地と南西の裾野部分とに２分される。

広面遺跡は富士見村の東端に位置し、前橋市と接している。赤城大鳥居の東約800m、県道渋川－大胡線の北側約300mに位置している。



第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	時代	種別	備考	群馬県遺跡台帳No.
1	広面遺跡	小暮字広面	縄文、平安、近世	集落跡など	本報告書	2176
2	（西　辻）	小暮字西辻	縄文	包蔵地	範囲は狭い、散布量少ない	2174
3	（西　辻）	小暮字西辻	縄文、古墳	包蔵地	散布範囲やや狭い	2173
4	（中　原）	小暮字中原	縄文	包蔵地	散布量やや多い	2178
5	（西所替戸）	小暮字西所替戸	縄文	包蔵地	散布量多い	2179
6	（清　塚）	小暮字清塚	縄文	包蔵地		2175
7	（横　堀）	時沢字横堀	縄文、古墳	包蔵地	散布範囲やや狭い	2173
8	百駄山遺跡	時沢字百駄山	縄文、平安	包蔵地	散布多量	
9	時沢古墳群	時沢字	古墳	墳墓		2187他
10	（大角谷戸）	時沢字大角谷戸	古墳	包蔵地	散布少量	2161
11	（四ツ塚）	時沢字四ツ塚	縄文	包蔵地	広範囲に散布少量、円墳あった	2163
12	（滝　脇）	時沢字滝脇	縄文、古墳	包蔵地	散布量やや多い	2168
13	（東諏訪）	時沢字東諏訪	奈良	墳墓	石製蔵骨器出土	2172
14	（山　王）	時沢山王	縄文	包蔵地	散布少量、小円墳一基あり	2164
15	（下百駄山）	時沢字下百駄山	縄文、古墳	包蔵地	広範囲、散布やや少ない	2169
16	東公田古墳	前橋市	古墳	墳墓		
17	芳賀北部団地遺跡	前橋市	縄文、古墳	集落跡など	縄文～中近世	

注：群馬県遺跡台帳１（東毛編）及び富士見村誌をもとに作成した。包蔵地の遺跡名は便宜的に小字名をあてた。

広面遺跡の周辺は古くから濃密な遺物散布地として知られており、多数の土器・石器類が採集されていたが、これまで発掘調査が行われたことはなかった。

遺跡包蔵地としては特に縄文時代のものが多く、標高が低くなるに従い、平安時代の遺跡等が多くなるようである

西方約２㎞には後期群集墳である時沢古墳群がある。その多くは現在削平されており、墳丘が認められるものはごくわずかである。広面遺跡のすぐ南側にも数基の古墳が現存する。

４．遺跡の立地

広面遺跡は、富士見村と前橋市とのほぼ境を流れる藤沢川に面する台地上に位置している。藤沢川は小さく蛇行しながら南流下しているが、広面遺跡の東側は直線的で、急崖となっている。南端は古くえぐられたものと思われ、内湾状に台地が削り込まれている。台地の西側はさらに南方に続いているが、遺跡はこの内湾部分を取り巻きやがて消滅する。北側は台地上に広く展開するが、北限は明瞭には把握できていない。

５．調査の方法

ほ場整備事業の道路予定地のほぼ中央に、重機によって幅約１～２ｍの試掘トレンチを入れた試掘調査によって遺構が検出された部分を拡幅し調査を行った。表土剝ぎはすべて重機によって行い、ローム層上面を遺構検出面とした。

遺構の調査は基本的に、ほぼ中心軸若しくは竈を通した位置で土層断面の観察を行い、順次掘り下げていった。遺物は基本的に床面・底面密着の物だけ位置を記録して取り上げたが、残存状態の良好なものなどは、埋土上層の物も記録している。

図面作成は平板実測で行い、遺構平面図･断面図は1/20、全体図は基本的に1/100で行った。炉の実測図・土坑の遺物出土状態実測図、溝断面図等は1/10で作成した。調査区域の設定はＡ区とした道路予定地部分のほぼ中央を縦断するように任意に縦軸を設定し、この縦軸からＢ区のほぼ中央を通るようにやはり任意に横軸を設定した。これを基準とし各区に基本的に10mピッチでグリッド設定を行った。但し、調査区域が狭いため、５ｍの位置に補助杭を多く設定した。

６．土層堆積状況

調査区域ごとに、かなり土層の堆積状況が異なる。

Ａ区―耕作によりかなり激しく削平されており、表土層直下にローム層が現れる。検出面から１ｍ程のローム層中に礫が含まれる。

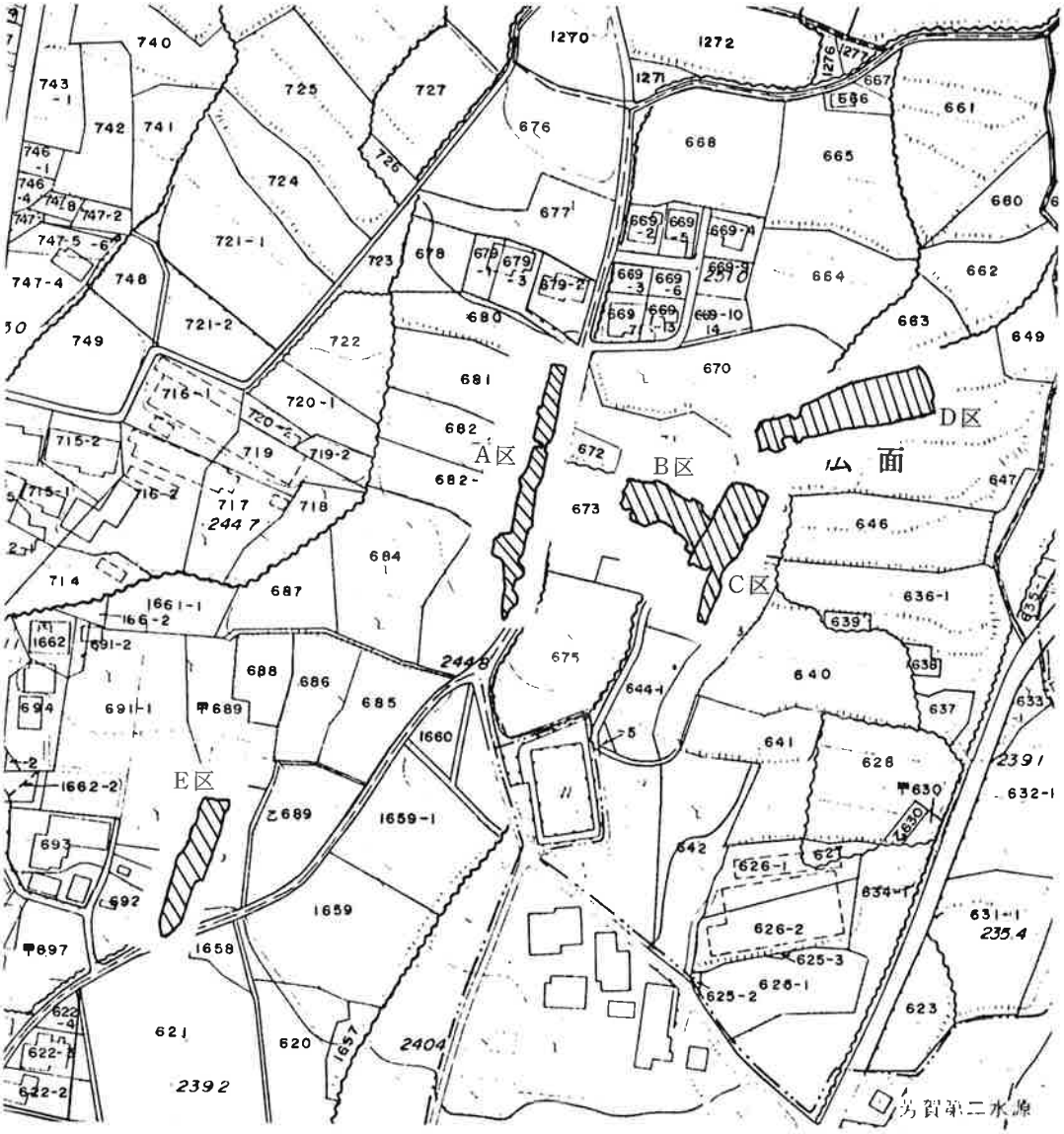
Ｂ区―耕作による削平はＡ区と同様であるが、検出面のローム層中に大小の礫が認められるようになる。遺構の床面や底面・壁面にも多量の礫が露出する。東半部の検出面には黒褐色土が堆積

しており、隣接するＣ区には認められないことから、旧河川の流路と思われる。

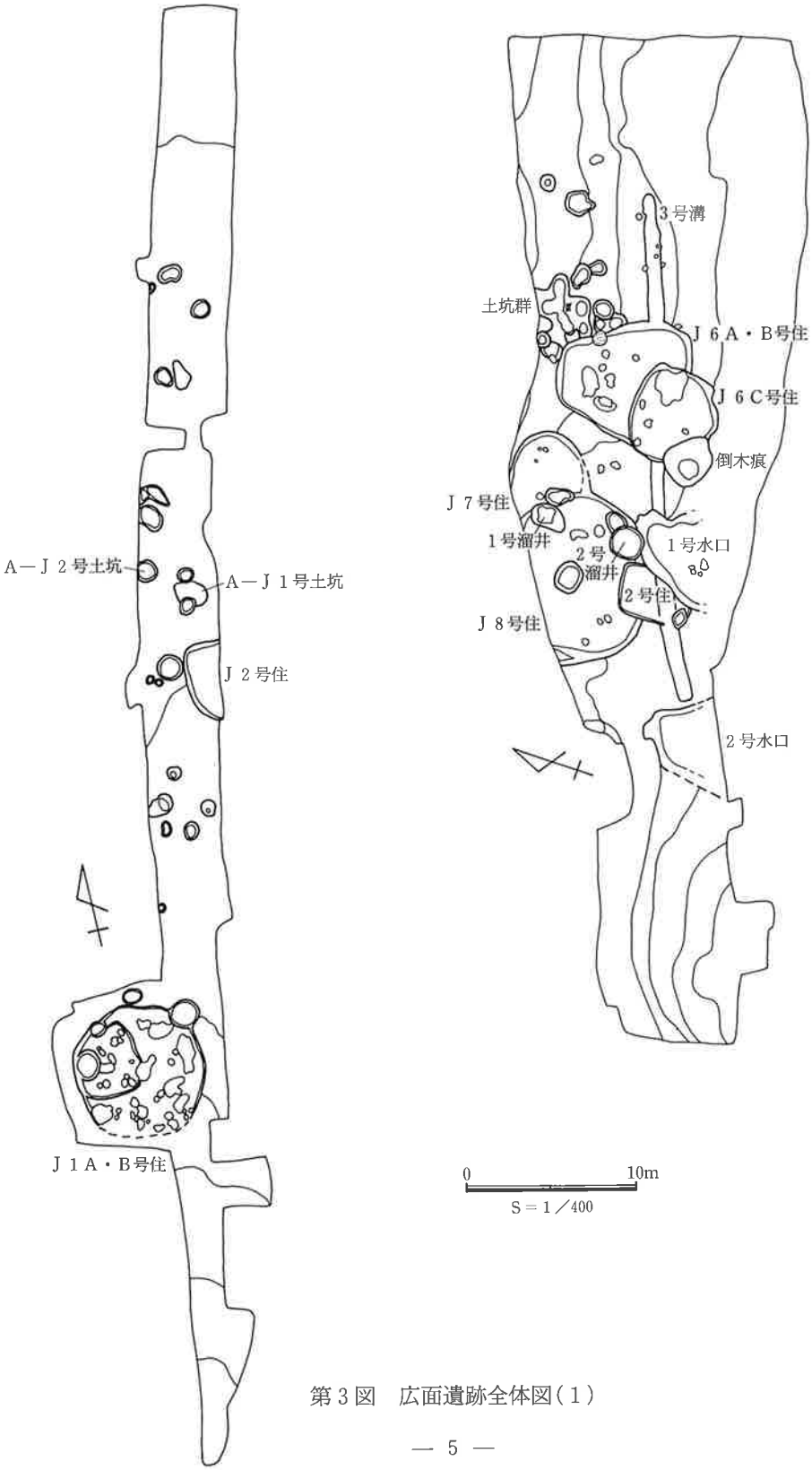
Ｃ区―ローム検出面において、すでに多量の礫が露出している。遺構内も礫が露出している。

Ｄ区―西端部では比較的きれいなローム堆積状況を示す。中央部西寄りでは礫の露出が激しい。中央部東寄りでは検出面で黒褐色土の堆積が認められ、窪地もしくは、旧河川跡のような状況を呈している。東端部ではまたローム層が検出面となるが、検出面直下から礫が多出する。

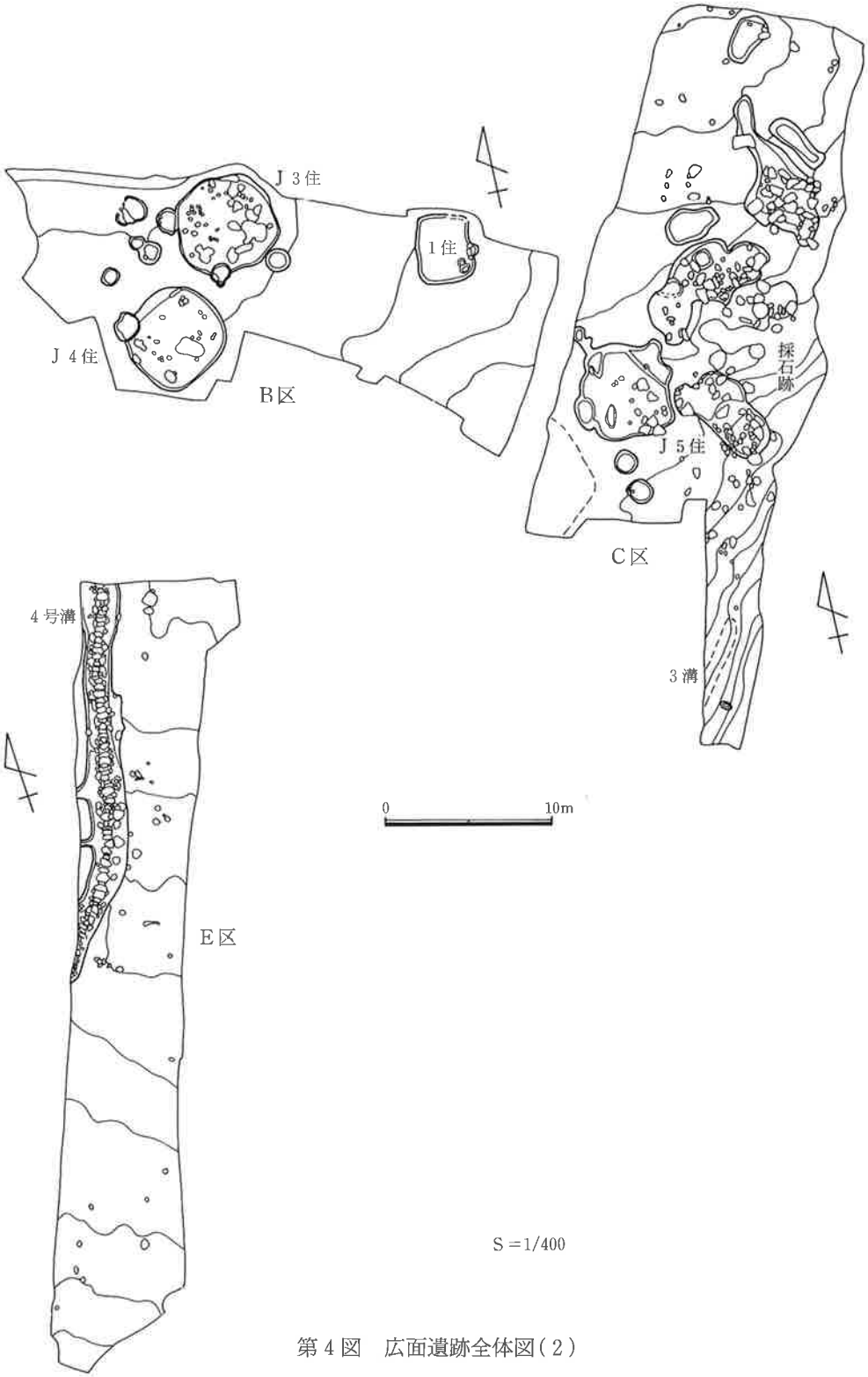
Ｅ区―表土とローム層の間に黒色土（Ｃ軽石―浅間山給源―を含む）が堆積する。ローム層中に礫が散在する。



第２図　遺跡の地形と調査区配置図



第３図　広面遺跡全体図（１）



第４図　広面遺跡全体図（２）

II　検出された遺構と遺物

1．概　　要

A区　縄文時代前期後半の竪穴住居跡３軒、前期中葉及び後半と思われる土坑約20基を調査した。遺物は遺構内外から遺構と同時期のものを主体として出土している。

B区　縄文時代前期後半の竪穴住居跡２軒、前期中葉及び後半と思われる土坑５基、平安時代と思われる竪穴住居跡１軒、時期不明の土坑２基を調査した。遺物は遺構数に比例して前期後半が主体であるが中葉のものも比較的多く出土している。

C区　縄文時代前期後半の竪穴住居跡１軒、前期中葉及び後半と思われる土坑５基、時期不明の溝３条、時期不明の石材採掘坑・加工跡を調査した。遺物は殆ど縄文時代前期後半のものである。なお、試掘調査ではC区の南側低地部分で縄文時代中期の遺物を若干検出しているが、遺構が検出されなかったため調査は行っていない。

D区　縄文時代前期後半の竪穴住居跡４軒、前期中葉及び後半と思われる土坑15基、平安時代の竪穴住居跡１軒、ほぼ同時期と思われる溝１条、時期不明の水口状の遺構２基等を調査した。遺物は遺構内を中心として縄文時代前期前・後半、中・後期の遺物が出土しているが、主体は縄文時代前期後半である。また、溜井状の土坑からは土師器・須恵器も出土している。

E区　江戸時代と思われる暗渠状の水路遺構が検出されている。遺物は掘り方等から陶磁器が出土している。なお、遺構外も含めてこれ以外の時期の遺物はほとんど出土していない。

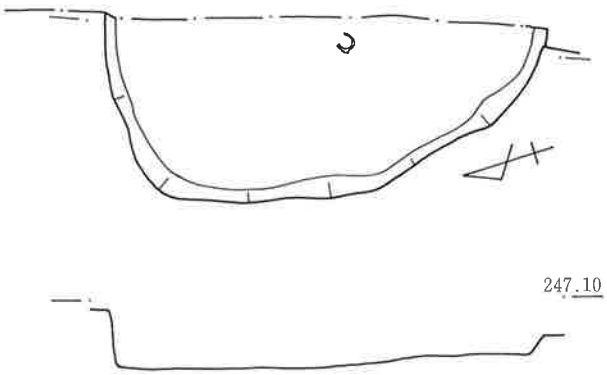
2．縄文時代の竪穴住居跡

Ｊ２号住居跡

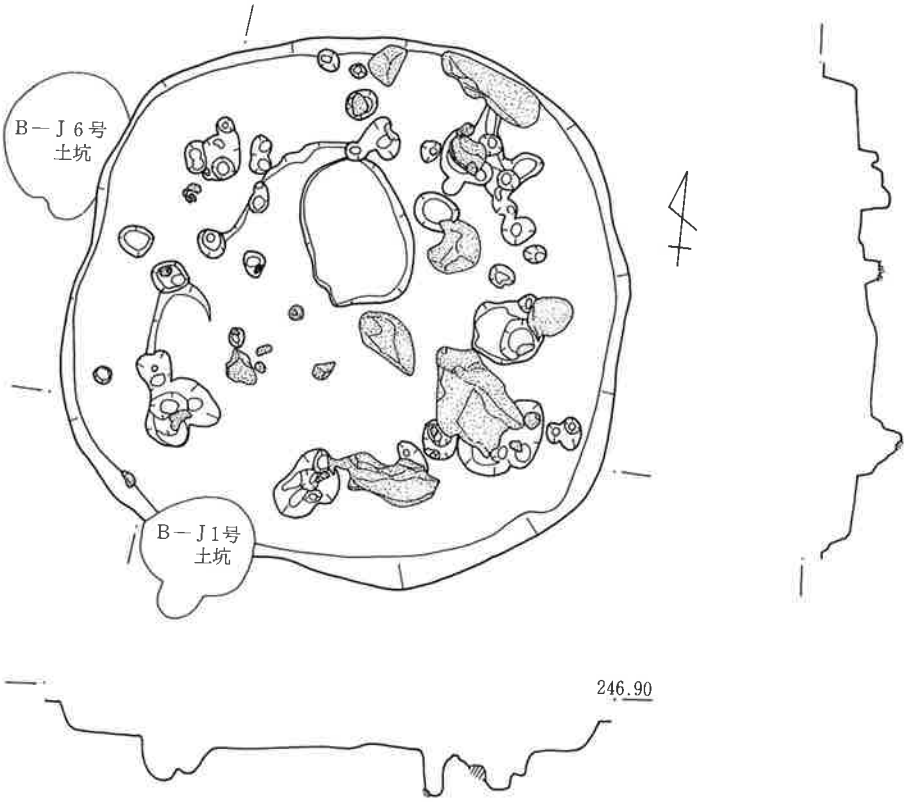
A区のほぼ中央に位置する。土坑群が近接する。東半部は現用の道路のため未調査である。

形状はかなり丸みのある四角形を呈すると思われる。南北約５ｍを測り、壁高は北壁で約60cmである。

中央と推定される位置に埋甕炉が検出された。土器は炉体土器以外は破片で、石器も少量出土した。



第５図　Ｊ２号住居跡



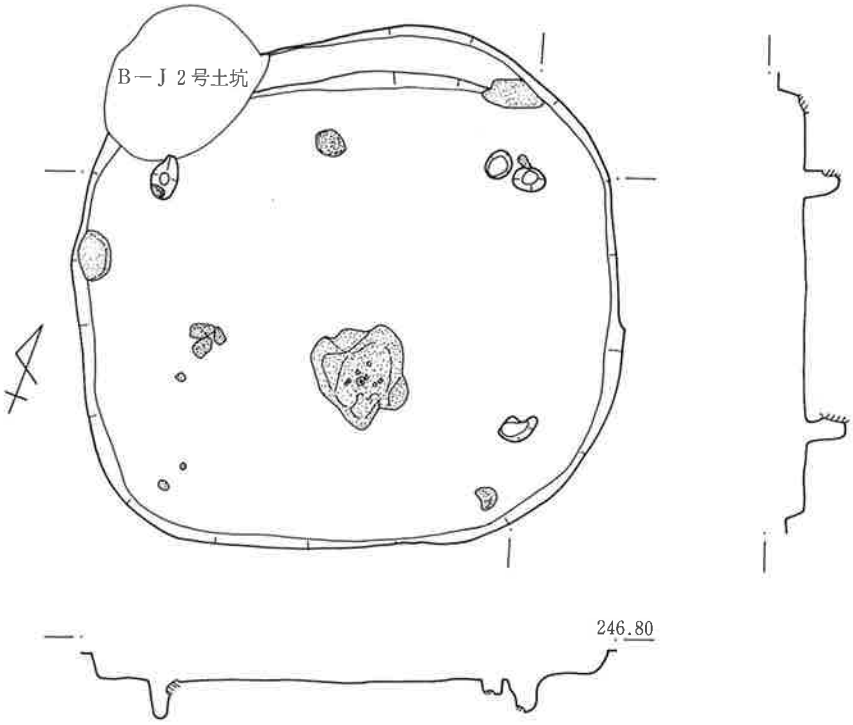
第６図　Ｊ３号住居跡

Ｊ３号住居跡

Ｂ区西半部に位置する。南側２ｍにＪ４号住居跡が近接する。Ｂ－Ｊ１号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。また、Ｂ－Ｊ６号土坑とも重複し、本跡が新しい。

東西、南北とも約5.6mを測り、かなり円形に近い四辺形である。壁高は約30cmである。壁面は北～西側はほぼ直に立ち上がるが、南～東は角度をもって立ち上がる。床面には大小の礫が突出しており、表面を凹石、蜂の巣石として利用していた。住居の中央部は一段低くなっており、土坑や他の住居跡が重複していると思わる。ほぼ住居プランと相似形の位置に多数のピットが検出されているが、礫の抜き跡との分離が困難なものもあり、明瞭に主柱穴を把握することができかった。中央の落ち込みの西端に焼土が検出されているが、どの遺構に伴うかは把握できていない。

遺物は埋土中から多量の土器・石器が出土しているが、土器形状を復元できたものは少ない。住居跡の時期は重複する遺構の分離ともからみ、不分明であるが、土器の時期は諸磯ｂ式期終末のものが主体的に出土している。



第７図　Ｊ４号住居跡

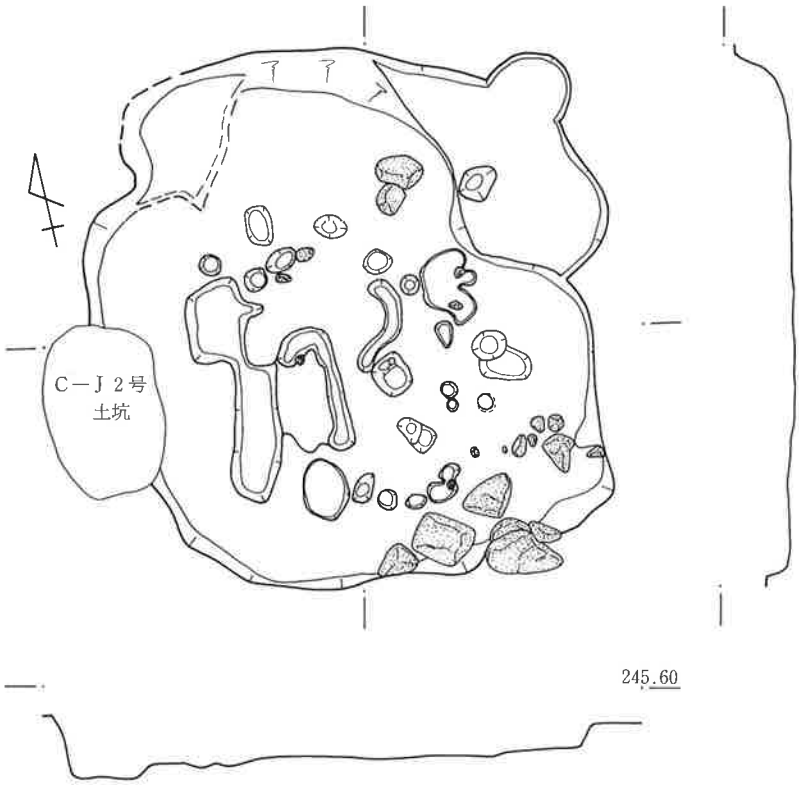
Ｊ４号住居跡

Ｂ区に位置する。北側にＪ３号住居跡が近接する。北西隅にＢ－Ｊ２号土坑が重複するが、本跡が古いと思われる。

住居の規模は東西、南北とも約5.6mを測り、かなり隅の丸い方形状を呈する。壁高は約20cmである。北端には床面より約10cm高く、幅約40cmを測るテラス状の施設が検出されているが、他の遺構が重複している可能性もある。壁面はいずれも若干角度をもって立ち上がる。床面のほぼ中央には径約１mの礫が突出しており、上面は凹石等として利用している。また他にも数点の礫が露出していた。床面は全体的に比較的堅緻であるが、礫の周囲は浅く堀り窪められており、土を入れて貼り床状になっていた。柱穴は対角線上の３ケ所に検出されているが、南西には検出されなかった。柱穴には重複等が認められ、建て替えが行われたものと思われる。炉は明瞭には検出されなかったが、床面中央部にわずかな焼土が認められており、地床炉と思われる。

遺物はわずかな土器破片と数点の石器類が出土しただけである。

遺物の時期は諸磯ｂ式期とｃ式期のもので、遺構の時期は不明瞭である。



第８図　Ｊ５号住居跡

Ｊ５号住居跡

Ｃ区南側に位置する。西側約２ｍに住居跡が近接するが未調査である。西側にＣ－Ｊ２号土坑が重複し、本跡が古い。また北西と北東にも土坑が重複するが、新旧関係は不明である。

２～３軒の重複もしくは立て替え住居の可能性があるものの、詳細は不明である。北西と北東にテラス状の部分があり、北東は床面が検出されたが、北西は明瞭には認められなかった。

床面は土坑などによる撹乱部を除いて明瞭に検出することができた。多数のピットも検出されているが、いずれも小規模で主柱穴と認められるものは確認できなかった。炉も検出されていない。南東部の床から壁面にかけて多数の礫が突出している。

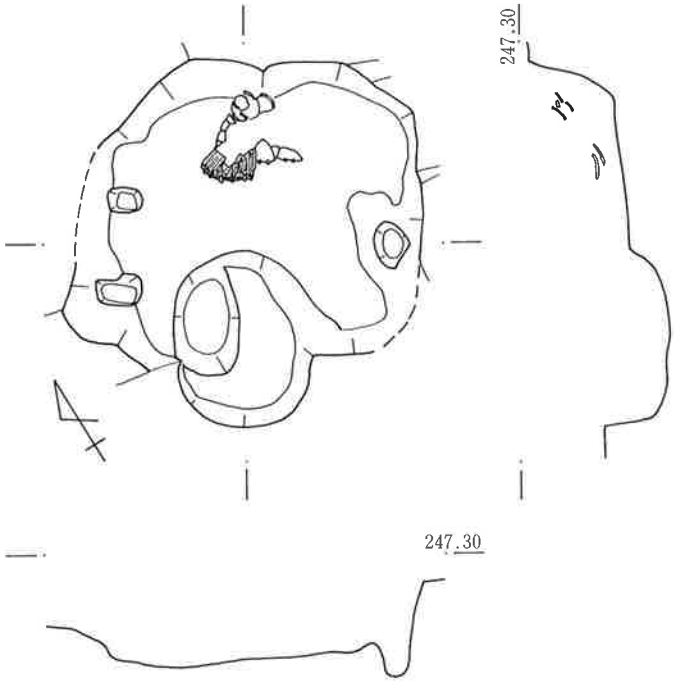
遺物は埋土中から多量に出土したが、床面から出土したものは殆ど無い。テラス状の部分は検出面から浅いためか、一点の土器破片も出土していない。遺物の時期は諸磯ｃ式期が主体で、本跡の時期も諸磯ｃ式期と思われるが、テラス状の部分の住居は、少量出土している諸磯ｂ式終末に属する可能性がある。

3．土　　坑

A－J１A・B号土坑

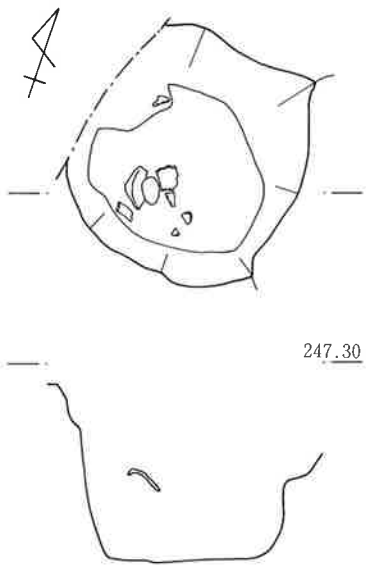
A区のほぼ中央部に位置する。南約２mにJ２号住居跡、北西２mにA－J２号土坑が近接する。

J１A・B号土坑としたが２基ないしはそれ以上の重複と思われる。南側のB号土坑は南北に長い形状で、長径0.9m×短径0.8mを測り、検出面からの深さは、約70cmを測る。北側はさらに0.6m×0.3mの規模で長円形に掘り込まれている。



第９図　A－J１号土坑

A号土坑は径1.8～1.9mの規模で、かなり歪みがみられる。深さは約40cmである。北壁から口縁部を下にして落ちかかるように深鉢が出土しており、中～下層からも多量の土器片が出土している。遺物の出土状態からA号土坑がB号土坑よりも新しいと思われる。遺構の時期は主体的に出土した土器の時期から、諸磯ｃ式期に属すると思われる。



第10図　A－J２号土坑

A－J２号土坑

東側は耕作溝が重複し、西端はわずかに区域外となっている。

径約1.2m、深さ約1.0mを測る。形状はほぼ円形を呈すると思われる。埋土下層に多量の焼土が検出されており、その上部から浅鉢や多量の土器破片が出土した。遺構の時期は、主体的に出土した土器類の時期から、諸磯ｂ式期と思われる。

4．縄文時代の出土土器

広面遺跡から出土した遺物は大半が縄文時代前期後半および中葉に属するものであり、検出された遺構の時期と符合する。その中でもやはり住居跡の時期である諸磯ｂ～ｃ式期が主体で、土坑だけが検出された黒浜・有尾式期は少ない。縄文時代中期・後期の土器は遺構外から少量出土しているだけである。

ここでは、遺構実測図を掲載したＪ２～Ｊ５号住居跡、Ａ－Ｊ１号土坑出土の土器を中心に、若干の他の遺構も加えて出土土器の様相について略述したい。なお、遺物実測図は上記遺構以外にＪ１Ａ号・Ｊ６Ａ号・Ｊ７号住居跡の一部も掲載している。

Ｊ１Ａ号住居跡出土土器－平縁、小波状縁、大波状縁の深鉢が出土している。いずれも口唇直下に刺突凹凸文を付し、貼付文を４単位に付す。胴部は縦区画集合沈線文で施文している。他に無文浅鉢も出土している。

Ｊ１Ｂ号住居跡出土土器－縦区画集合沈線文の土器が主体であるが、口縁部に密に貼付文を付すものが多い。胴部にはあまり貼付文が見られない。貝殻文、無文の深鉢片も出土している。

Ｊ２号住居跡出土土器－炉体土器は貼付文が胴部に付いた縦区画集合沈線文の土器である。埋土中から出土した土器もほとんど縦区画集合沈線文の土器であるが、胴部には貼付文の付くものと付かないものの両者がある。黒色塗料（漆？）で施文した浅鉢の破片が出土している。

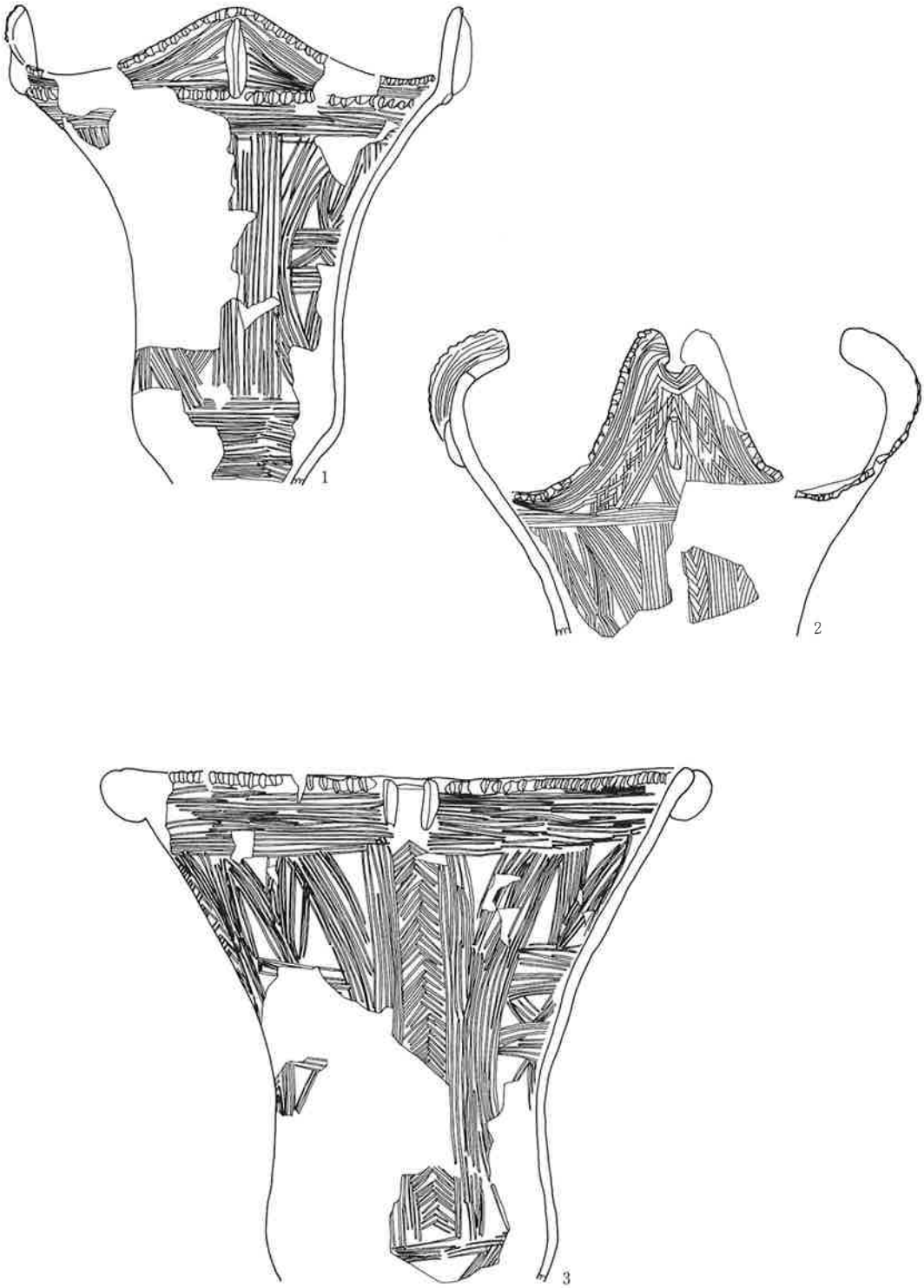
Ｊ３号住居跡出土土器－横区画集合沈線文の土器が主体に出土しており、縦区画集合沈線文の土器はわずかである。波状口縁の深鉢も多く出土している。貼付文は口縁部に数単位貼付されるものがあるだけである。Ｊ２号住居跡と同様に、浅鉢の中に黒色塗料（漆？）で施文したものがある。本跡埋土中からは繊維を含む土器破片が比較的多く出土している。

Ｊ４号住居跡出土土器－いずれも小破片で縦区画集合沈線文、横区画集合沈線文共にある。貼付文は口縁部破片が１点出土しただけで、胴部破片は出土していない。貝殻文が出土している。

Ｊ５号住居跡出土土器－縦区画集合沈線文土器が主体であるが、横区画集合沈線文土器も出土している。また、横方向のナデ跡を明瞭に残す無文土器や縄文施文の土器も出土している。貼付文は多様で、口縁部に少数付くものから、胴部を含めて密に付されるものまである。口唇直下に刺突凹凸文の付く口縁部も多い。

Ｊ６Ａ号住居跡出土土器－縦区画集合沈線文土器、横区画集合沈線文土器ともに出土している器面の上半部全面を刺突凹凸文で施文した深鉢もある。また、体部に黒色塗料（漆？）で集合沈線を施文した浅鉢が出土している。

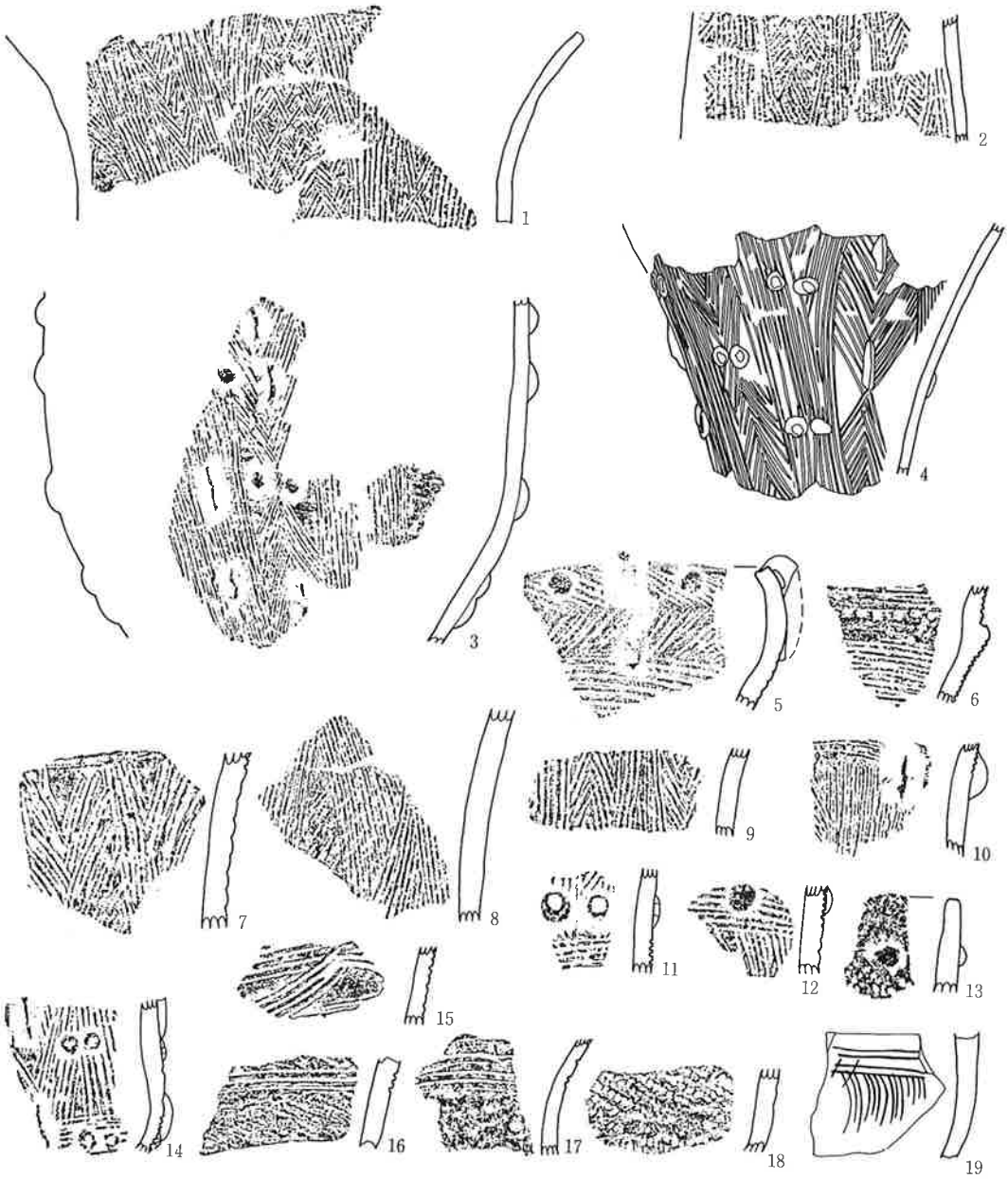
Ｊ６Ｃ号住居跡出土土器－縦区画集合沈線文土器が主体に出土した。貼付文は比較的密に付され胴部にも認められる。本跡からは比較的多く無文深鉢が出土している。他に、浮線文、縄文や貝



第11図　Ｊ１Ａ号住居跡出土遺物

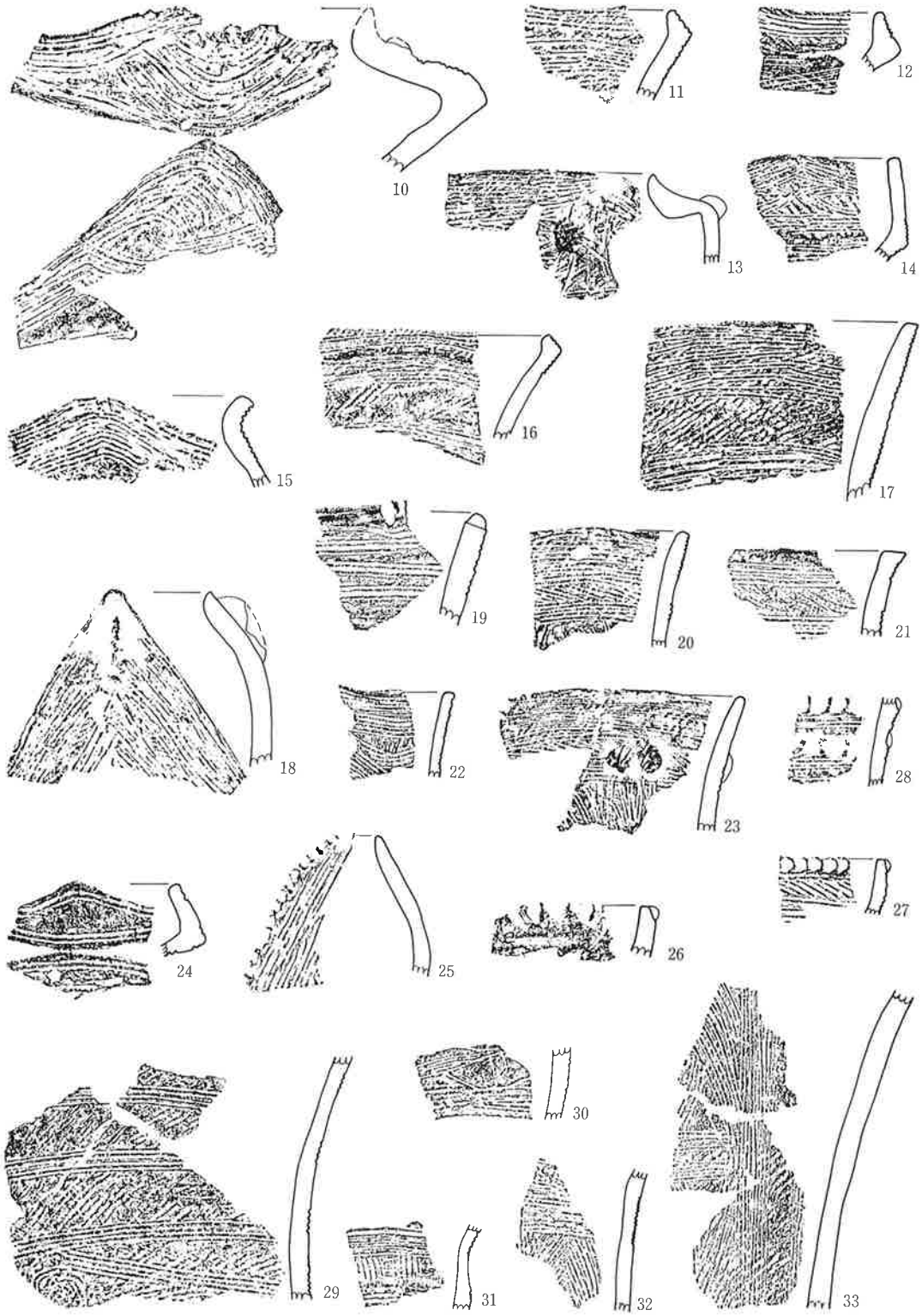
殻文、刺突凹凸文の付された土器も出土している。

Ｊ７号住居跡出土土器－縦区画集合沈線文土器が主体に出土している。復元できた個体は口縁部が２段を呈する器形で、貼付文が密に付される。貝殻文土器も出土している。他に、口唇直下に刺突凹凸文の付された口縁部破片も多く、浮線文、結節浮線文も少数出土している。

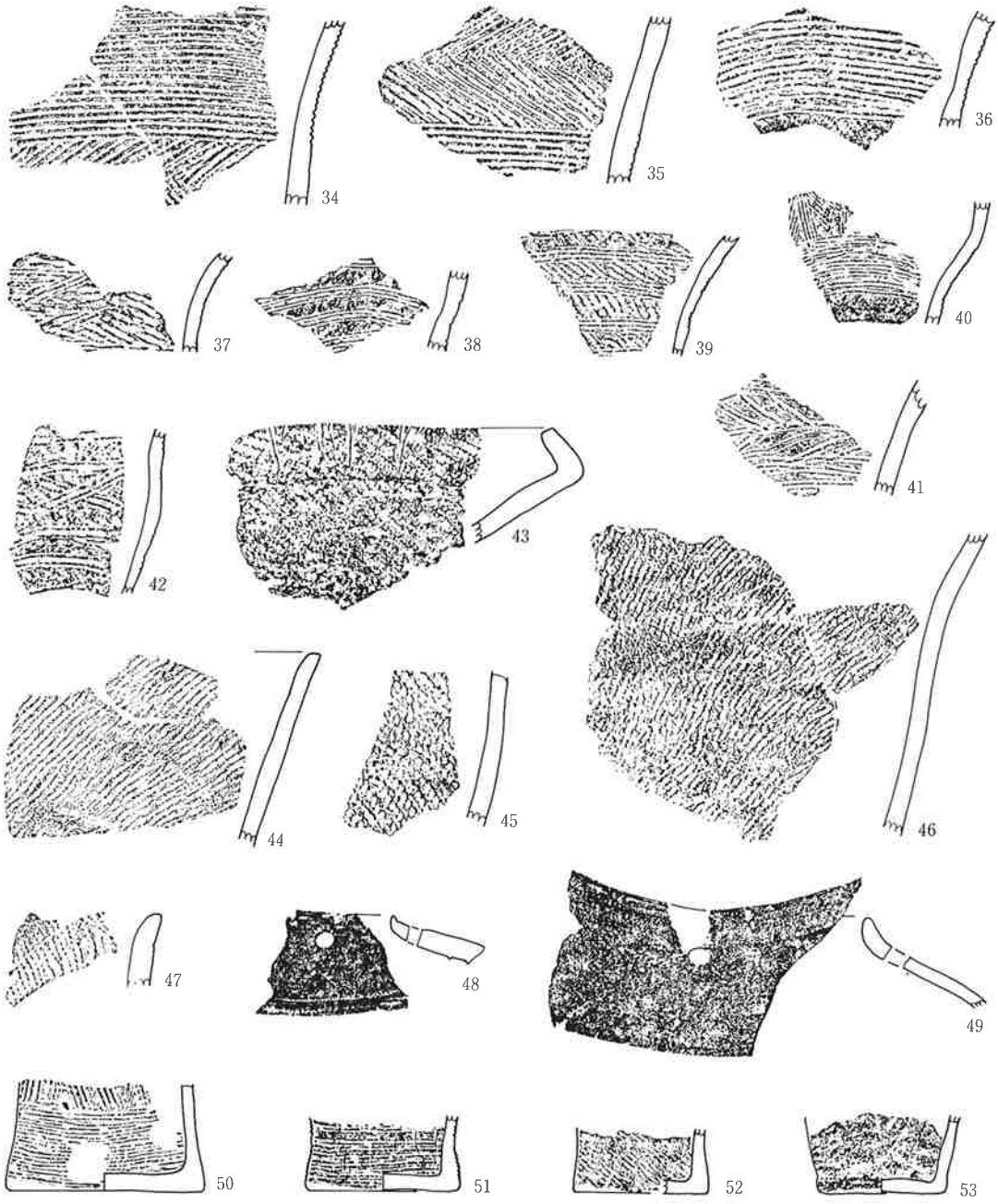


第12図　Ｊ２号住居跡出土遺物

第13図　Ｊ３号住居跡出土遺物（１）



第14図　Ｊ３号住居跡出土遺物（２）



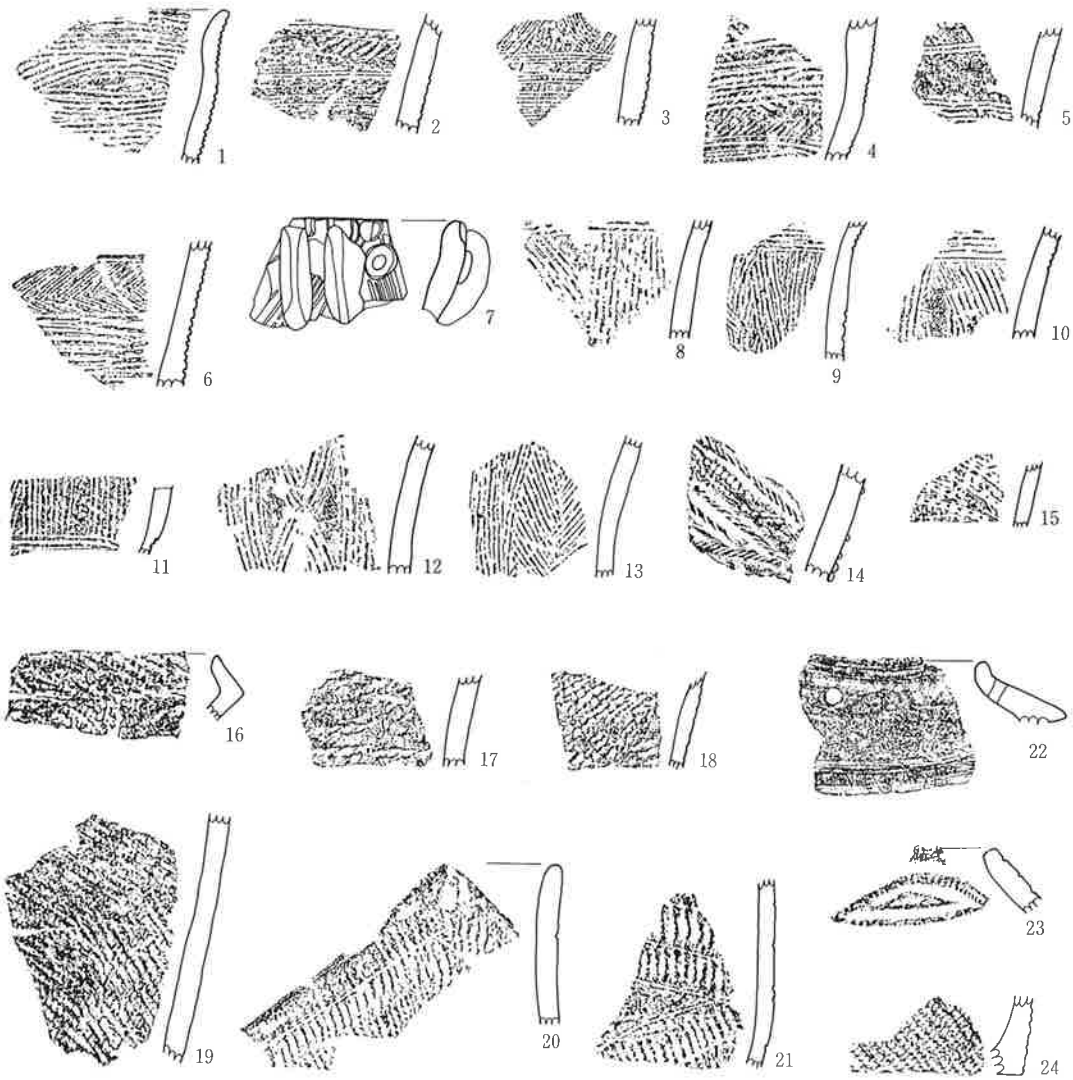
第15図　Ｊ３号住居跡出土遺物(３)

Ｊ８号住居跡出土土器－多量に出土している。横区画集合沈線文が主体であるが、縦区画集合沈線文も比較的多い。点数的には少ないが、貝殻文、結節浮線文、無文土器も出土している。刺突凹凸文が口唇直下あるいは胴部に付された破片も比較的多く出土している。

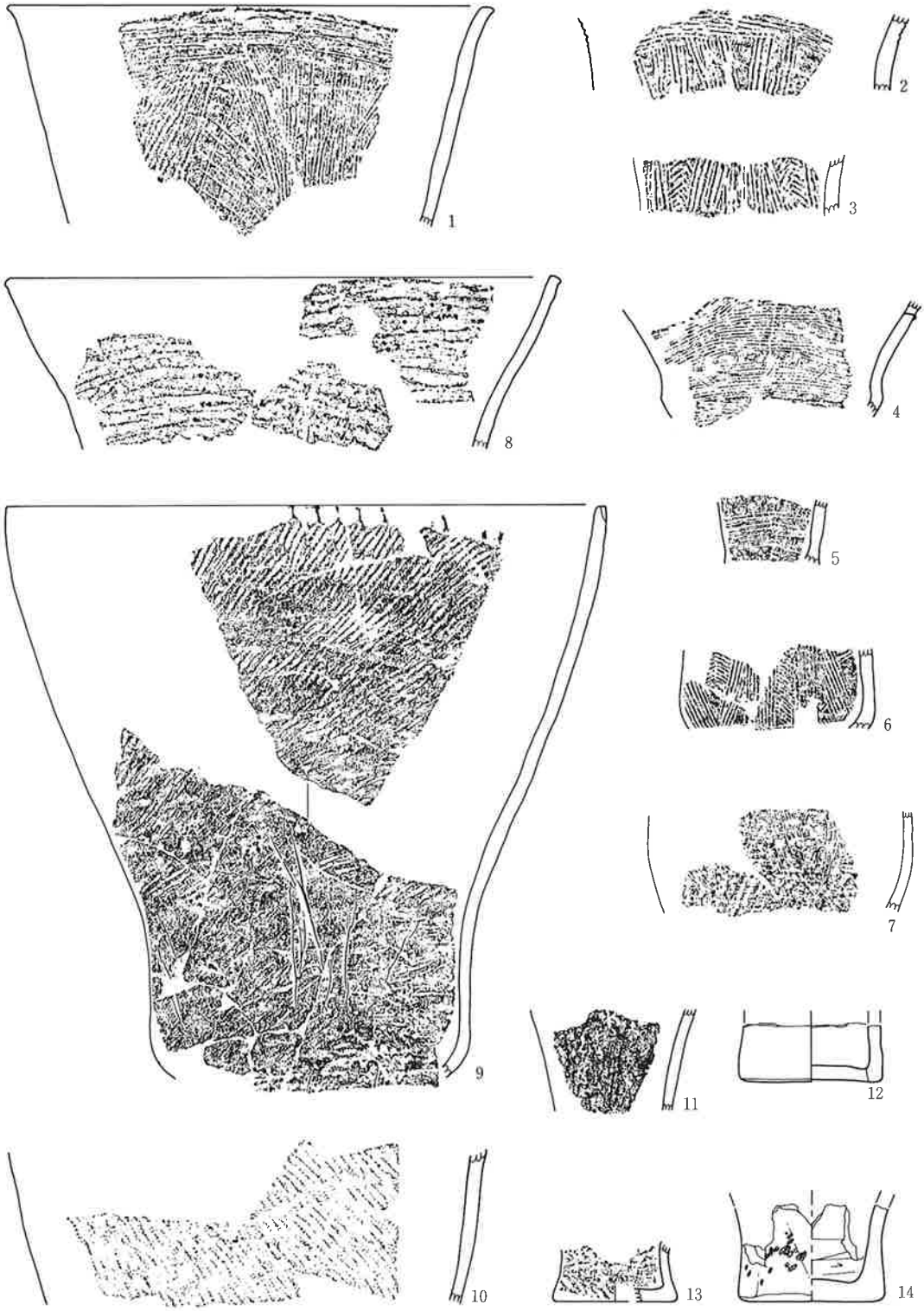
Ａ－Ｊ１号土坑出土土器－掲載した土器は口縁部に貼付文が巡る深鉢で、胴部下方に焼成後穿孔している。他の遺物もほとんど縦区画集合沈線文土器である。浅鉢も出土している。

Ａ－Ｊ２号土坑出土土器－平行沈線（横区画集合沈線）文土器が主体である。小波状口縁で平行沈線で施文された浅鉢が出土している。

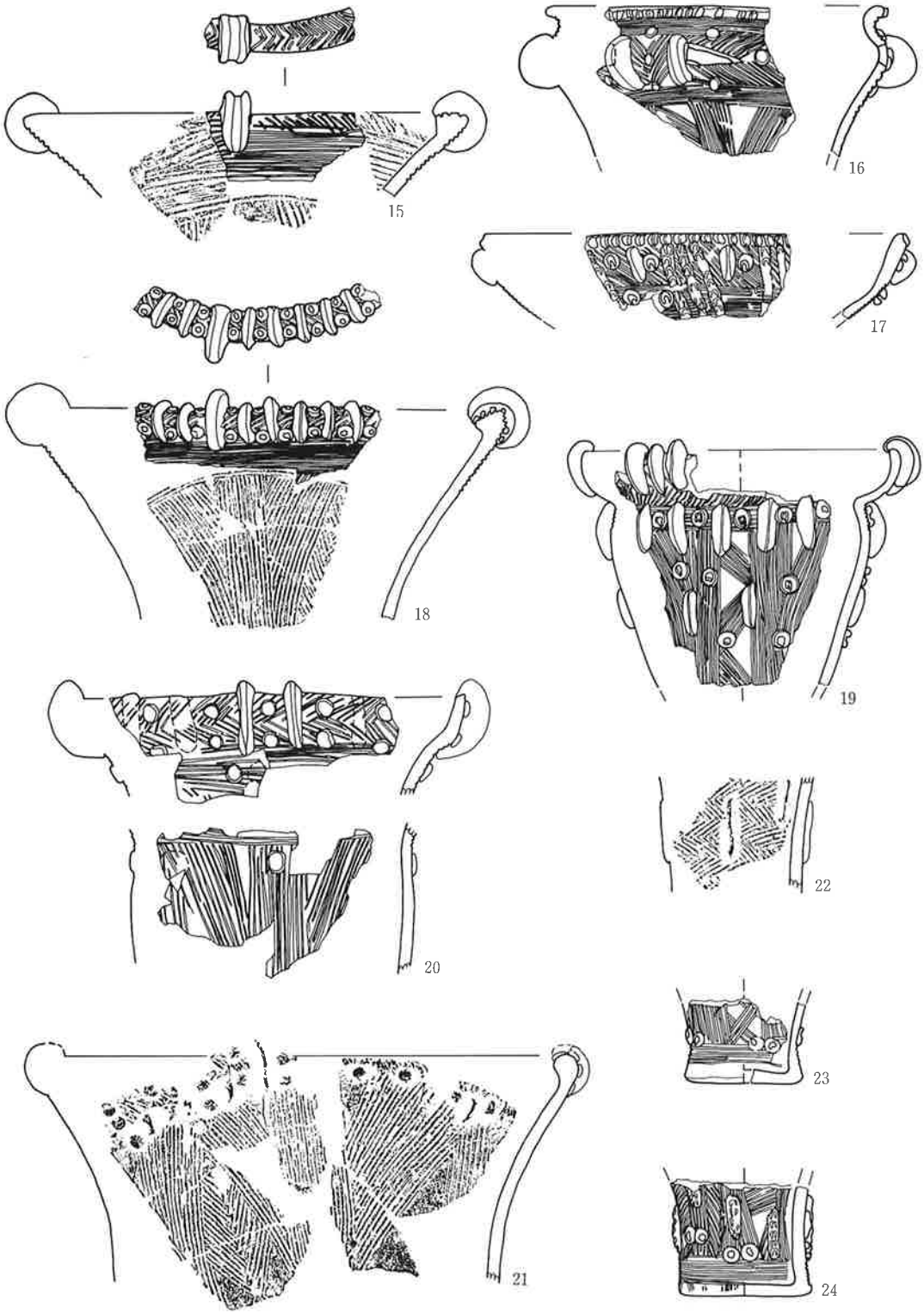
Ａ－Ｊ３号土坑出土土器－浮線文が主体で出土しており、平行沈線文土器も出土している。



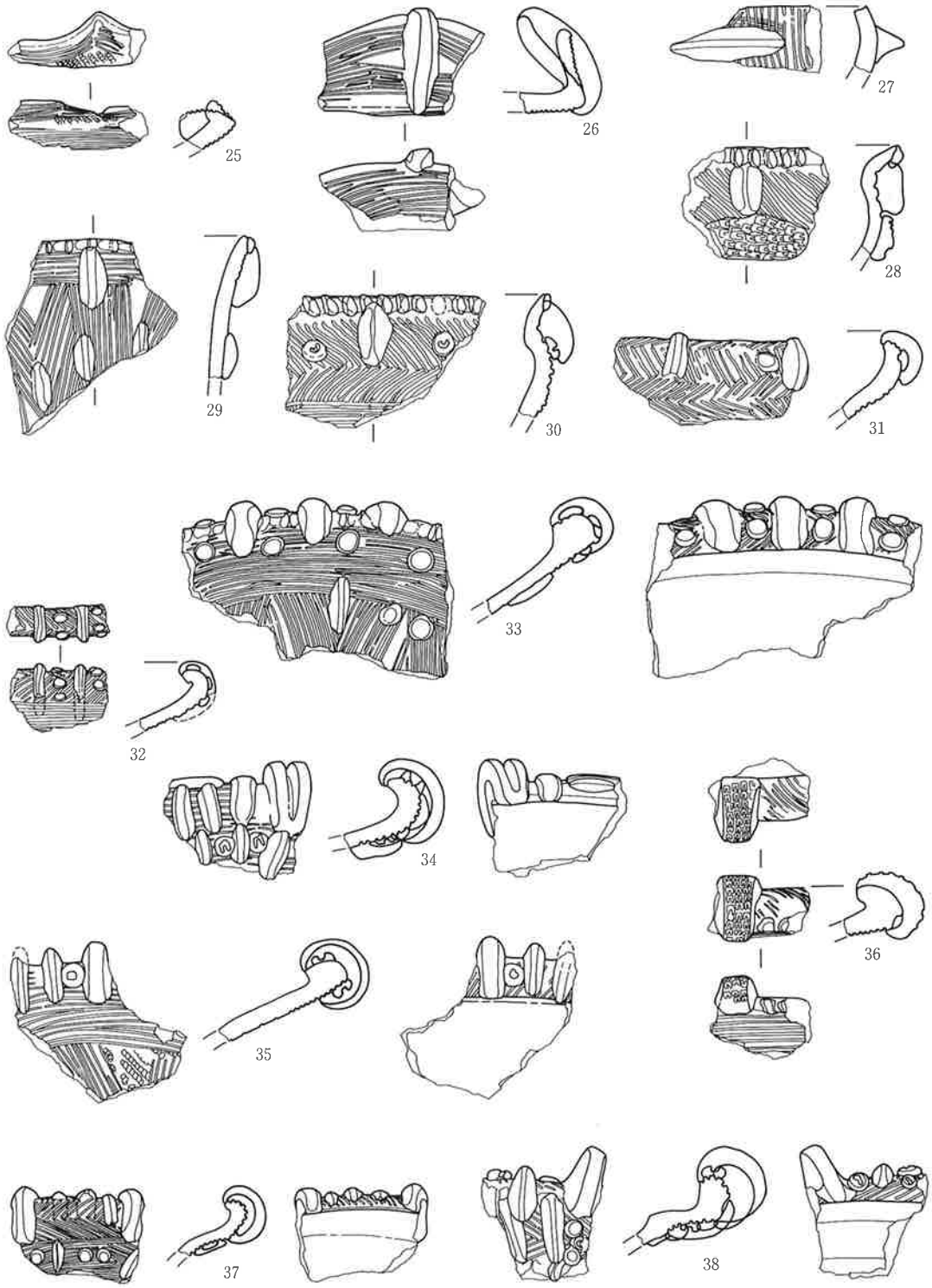
第16図　Ｊ４号住居跡出土遺物



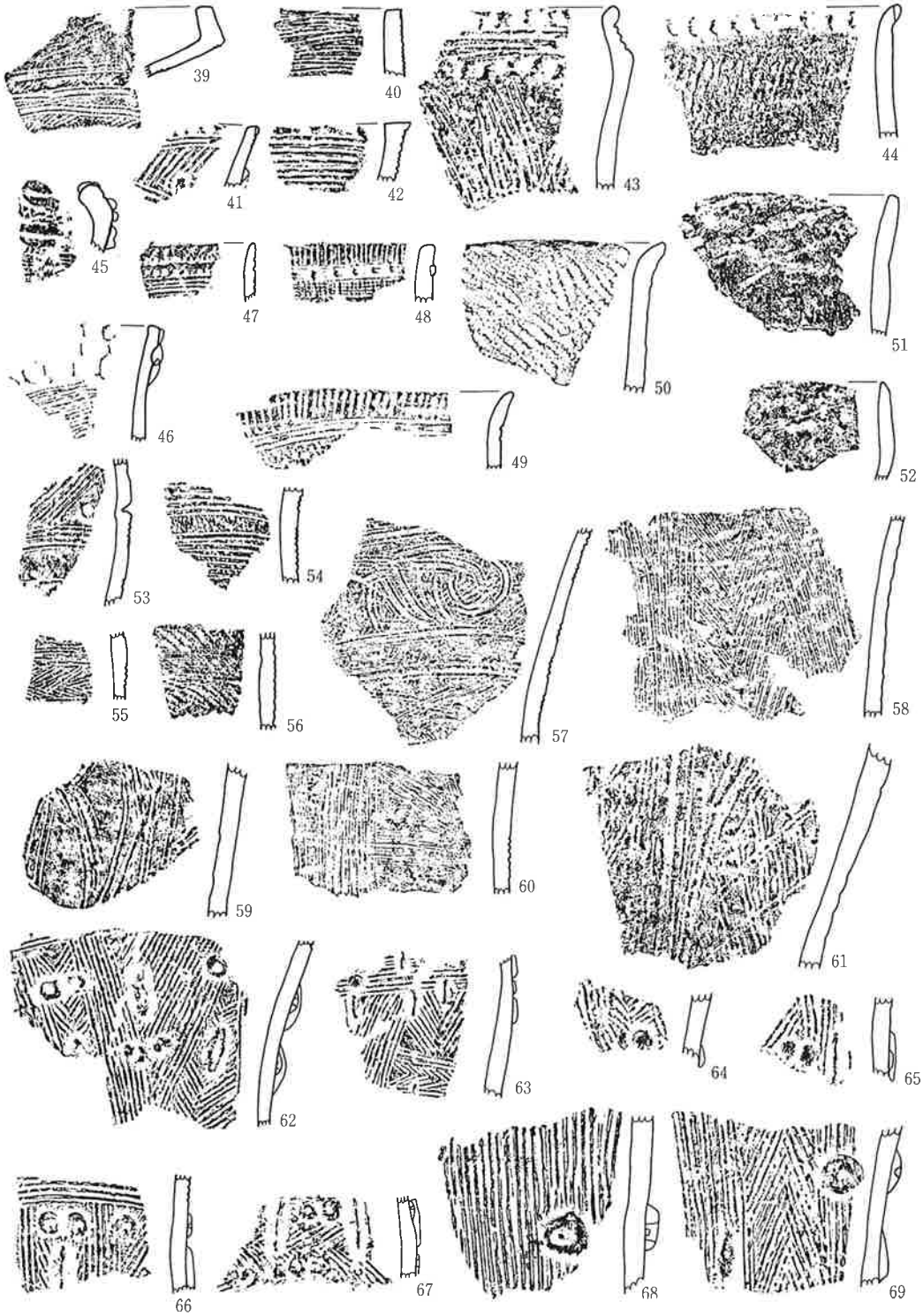
第17図　Ｊ５号住居跡出土遺物（１）



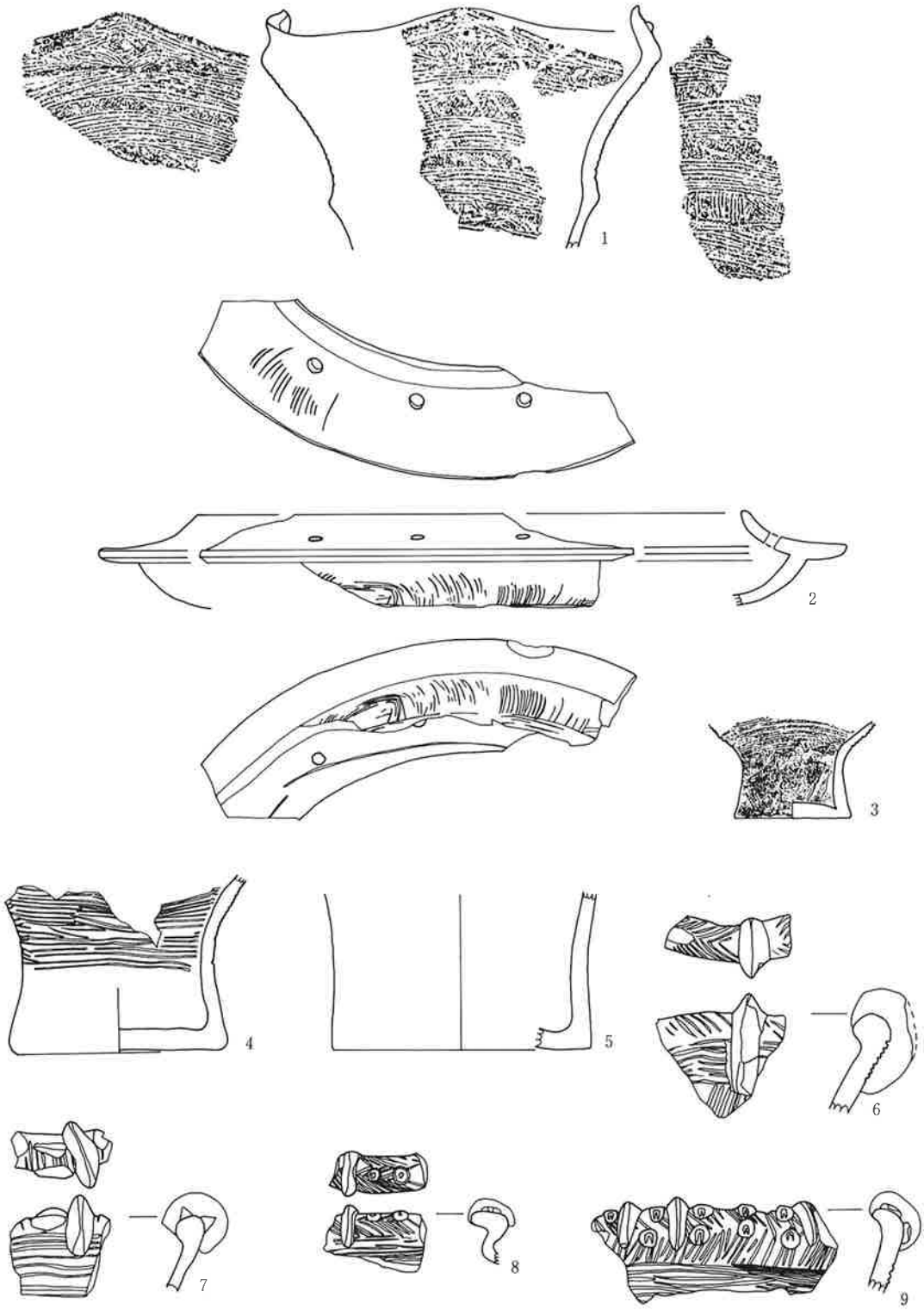
第18図　Ｊ５号住居跡出土遺物（２）



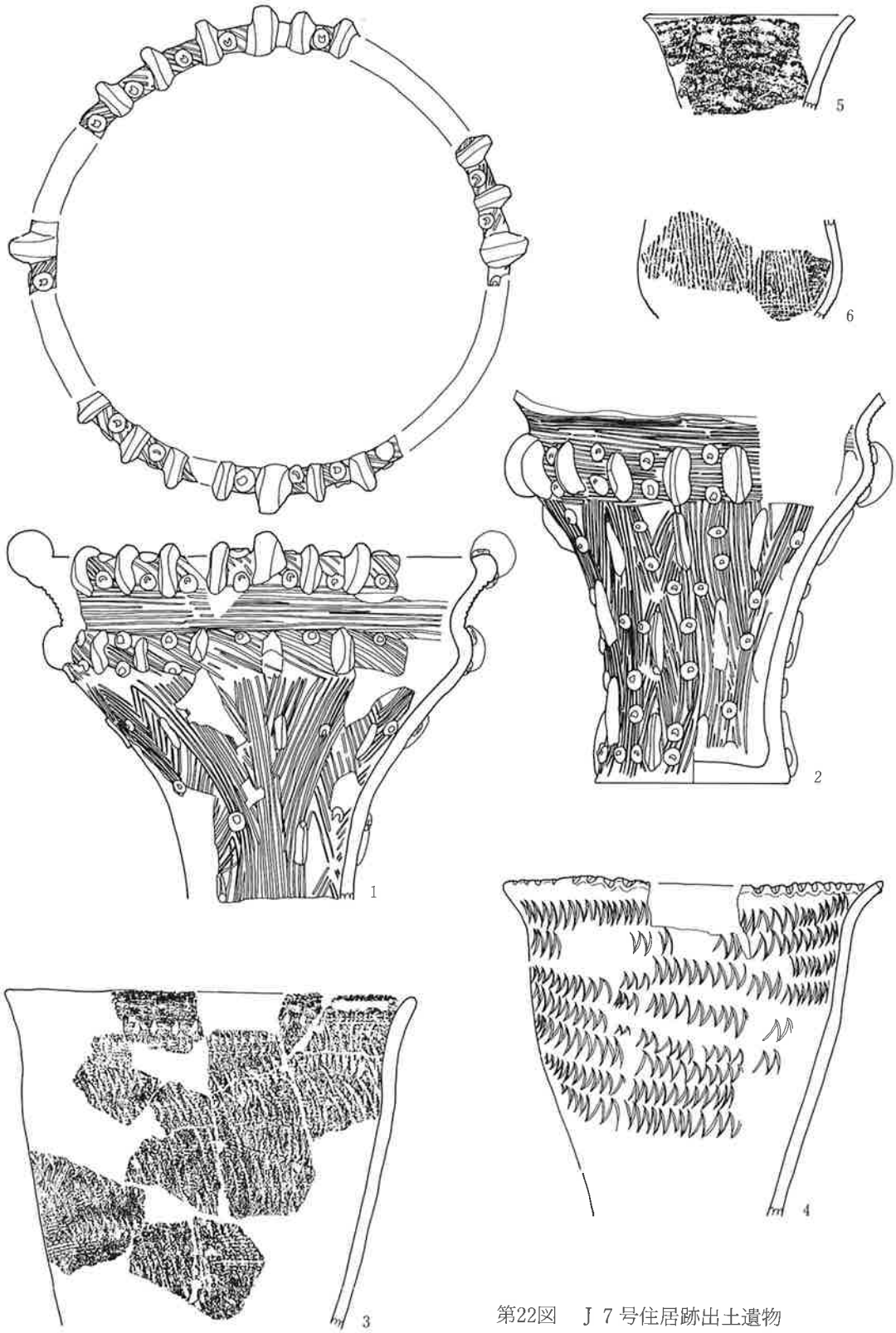
第19図　Ｊ５号住居跡出土遺物（３）



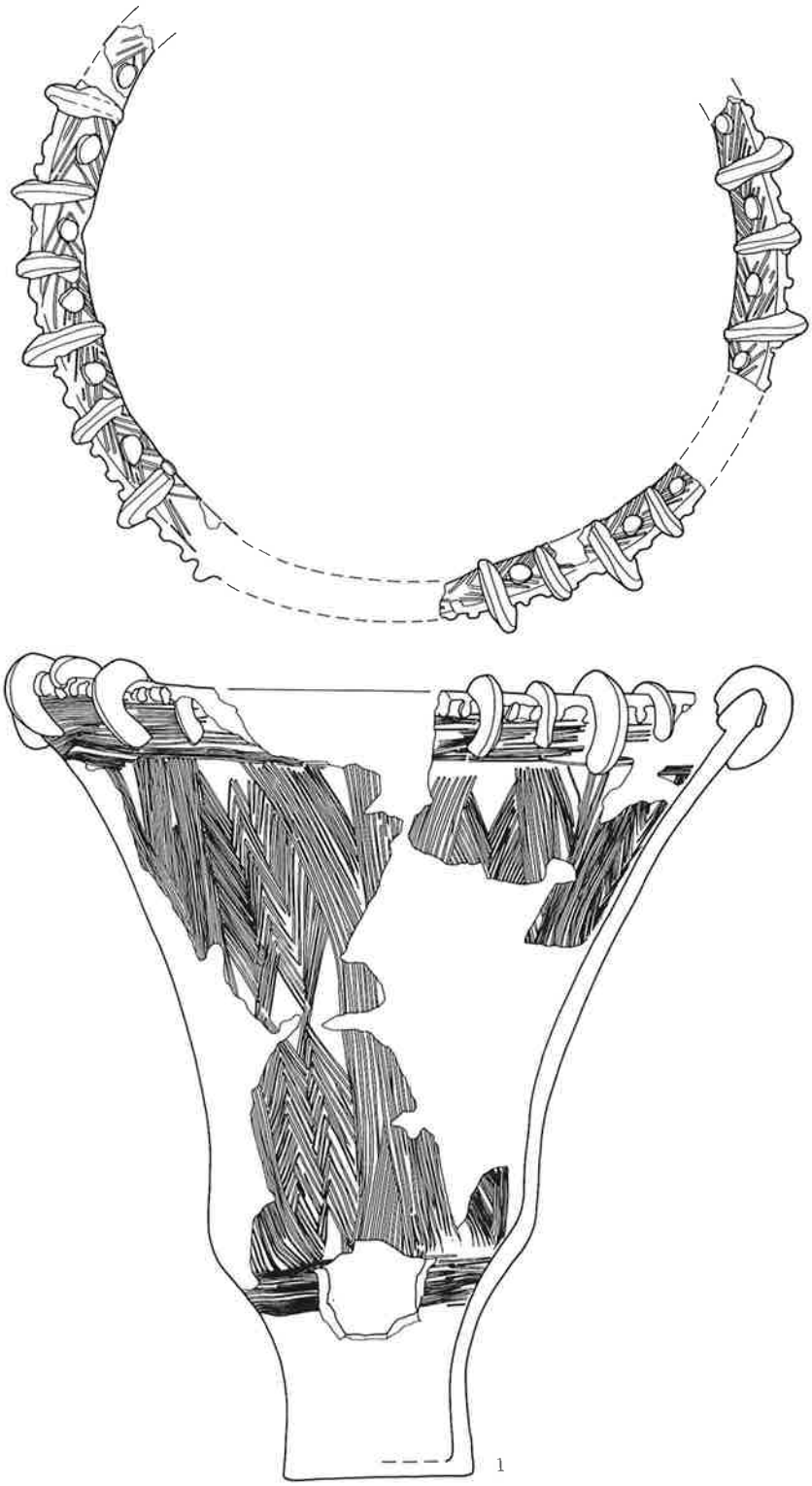
第20図　Ｊ５号住居跡出土遺物（４）



第21図　Ｊ６Ａ号住居跡出土遺物



第22図　Ｊ７号住居跡出土遺物



第23図　A－J 1号土坑出土遺物

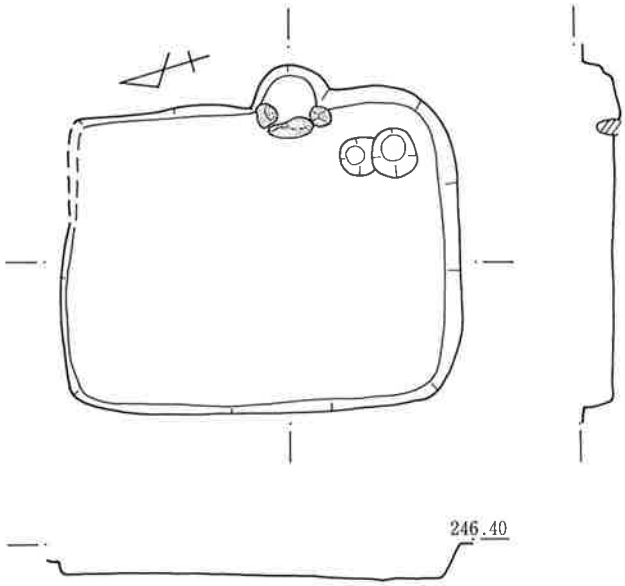
5．平安時代の住居跡

1号住居跡

B区東半部に位置する。近接する同時期の遺構は無い。

東西3.4m、南北4.2mを測り隅丸長方形を呈する。壁高は約40cmである。床面は軟弱で、柱穴は検出されていない。南東隅には壁から離れてピットがあるが、規模が小さく性格不明である。東壁の若干南寄りにカマドが付設されている。焚口の両脇に石を立て、天井石を架けた鳥居状の石組と思われるが、天井石は崩落していた。

遺物は全く出土していないが住居構造などから、平安時代と思われる。



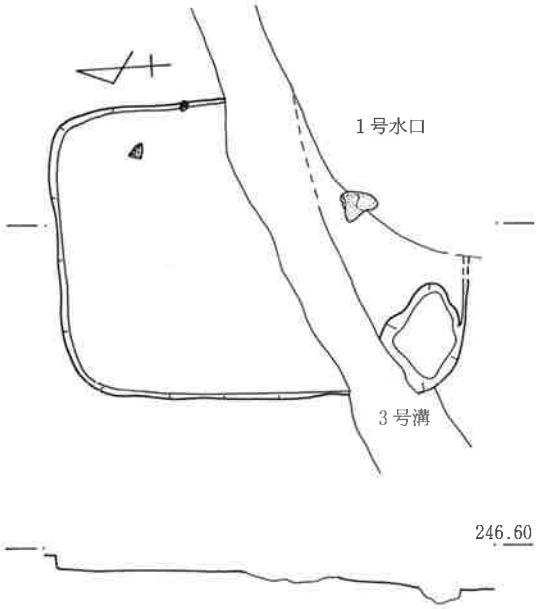
第24図　1号住居跡

2号住居跡

D区中央部に位置する。3号溝、1号水口によって撹乱されている。

東西3.2m、南北4.3mを測り、隅丸長方形を呈する。壁高は約10cmと浅い。床面は軟弱である。南西隅に土坑が掘削されているが、性格不明である。カマドは3号溝等によって削平されたと思われ、他の施設も検出されていない。

遺物は坏が1点出土しただけである。遺構の時期はこの坏から、平安時代と思われる。



第25図　2号住居跡

III　まとめにかえて

広面遺跡周辺は古くから縄文時代の遺物散布地として知られており、多くの人々が土器や石器の採取に訪れていました。道路工事の際に敷石住居跡を壊したという話も聞き、調査以前は縄文時代中期もしくは後期の遺跡を予想していました。しかし、発掘調査の結果は縄文時代前期を主体とする遺跡であることが判明しました。ただ、調査範囲が遺跡南端のわずかな部分であるため、これだけで遺跡全体の様相が明かになったとは言い難く、遺構内外から出土した遺物等から推測すると、縄文時代中・後期、あるいは古墳時代、平安時代の集落等が調査区域外北側に予想されます。

本報告書は概要の報告であり、整理作業が終了していない現時点で調査全体の成果について言及することは不可能ですが、これまでの整理を通じて得られた成果を時代ごとに略述し、まとめに替えたいと思います。

縄文時代前期中葉（黒浜・有尾式期）

遺構は土坑が数基検出されただけであるが、他の時期の遺構から多量の該期の土器類が出土していることから考えると、かなり大規模な集落が調査地の北側に展開することが予想される。

縄文時代前期後半（諸磯式期）

Ａ～Ｄ区で約10軒の竪穴住居跡と多数の土坑を調査した。時期的な細別ではｂ式期末からｃ式期にかけての土器が主体として認められ、それ以外の時期のものも少数出土している。ｂ式期からｃ式期への変化を辿れる土器群が存在しており、また、ｃ式期を細分できる可能性のある土器群も認められる。

縄文時代中期（加曽利Ｅ式期）・後期（称名寺式期、堀之内式期）

いずれも遺構が検出されず、他時期の遺構等に混入した状態で土器が少量出土している。しかし、上記したように調査区域の北側には集落が存在する可能性が大きい。

古墳時代

遺構は検出されず、遺物が少量出土した。

平安時代

竪穴住居跡２軒と不明確ではあるが、溝が該期に属すると思われる。住居跡はＢ区とＤ区に離

れて検出されたもので、調査区域内では集落としての体様を成していないが、調査区域外北側に集落が展開している可能性はある。

近世

明確にはＥ区で調査した暗渠状の溝が１条だけである。

時期不明

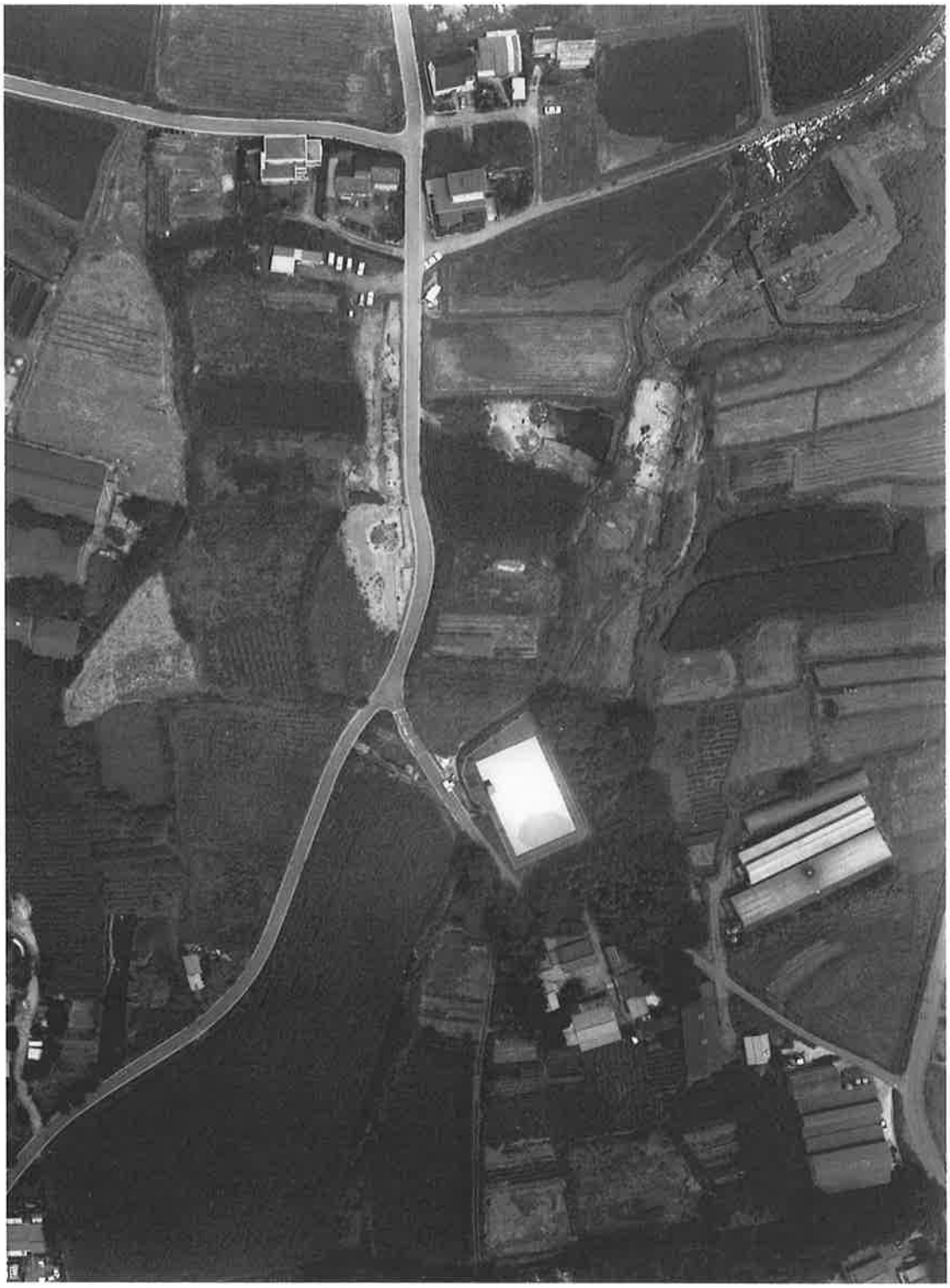
Ｄ区に検出された溜井状の遺構と水口状の遺構がある。また、Ｃ区では採石跡を調査している。埋土の状態から判断すると採石跡はかなり新しい（近・現代）ようである。溜井状の遺構と水口状の遺構は近世以前の可能性もある。

今回の調査は広面遺跡南端のごくわずかな範囲を行ったに過ぎないが、縄文時代前期後半の遺構と遺物は比較的まとまった資料が得られた。本概報では整理済みの遺構と土器の一部分を報告したが、残りの遺構と遺物については現在整理中である。土器だけでなく石器についてもまとまった資料が出土している。

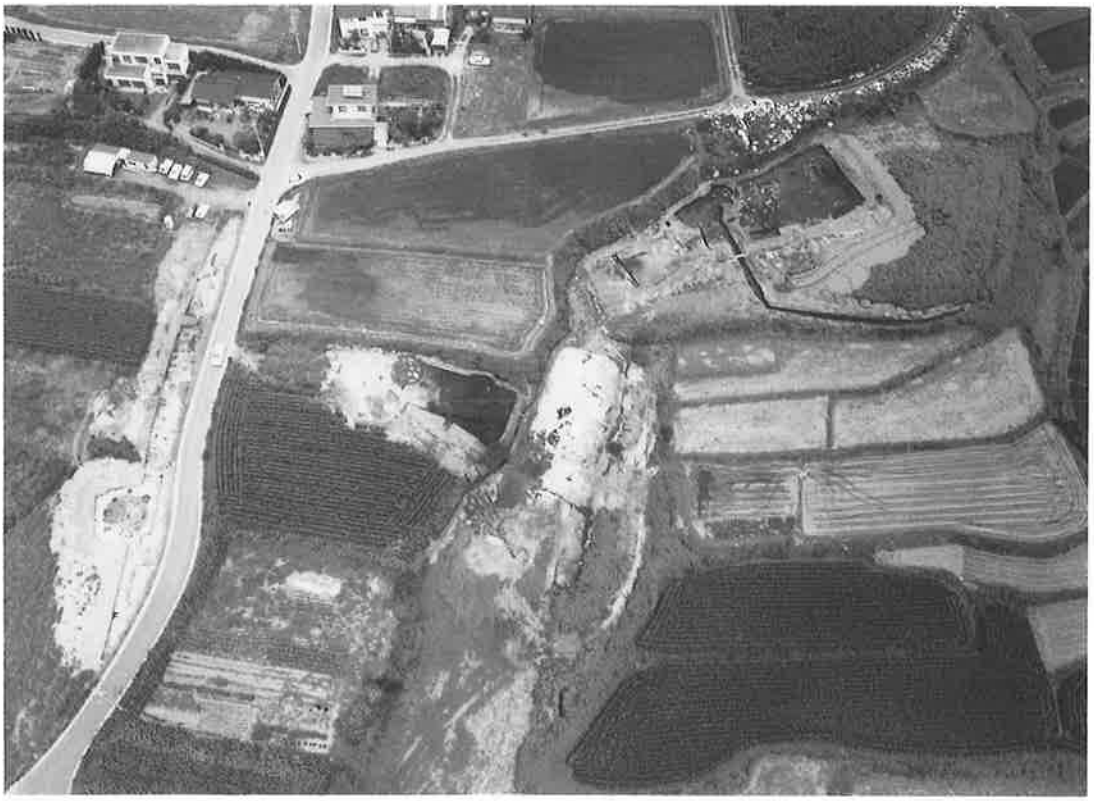
広面遺跡で調査した縄文時代前期後半（諸磯ｂ～ｃ式期）の様相は、群馬県昭和村の糸井宮前遺跡の調査をはじめとする近年の調査事例の増加により次第に明らかになりつつある。しかし、ｂ式からｃ式への変遷、あるいはｃ式の中での変遷については未だ解明されていない部分が多いのも事実である。広面遺跡の該期資料はこれらの問題を究明する上で少なからず貢献し得る可能性を有していると思われる。

本報告書で提示した資料は、調査全体で得られた成果からすればごくわずかな部分であり、できるだけ早い時期に本報告書を刊行したいと考えている。

写　真　図　版



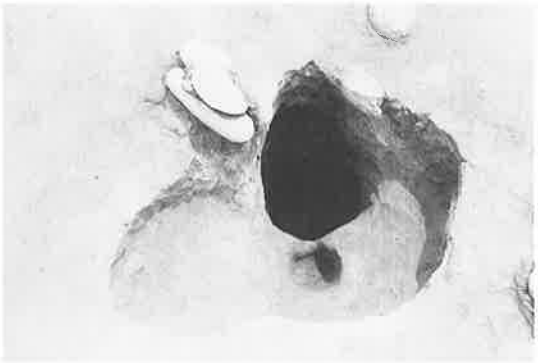
1、広面遺跡全景



1、広面遺跡A・B・C・D区全景

2、広面遺跡A・B・C区全景

1、Ｊ１Ａ・Ｂ号住居跡



2、Ｊ１Ａ号住居跡柱穴

3、Ｊ１Ｂ号住居跡

4、Ｊ２号住居跡

5、Ｊ３号住居跡

6、Ｊ４号住居跡

7、Ｊ５号住居跡

8、同左遺物出土状態

1、Ｊ６Ａ・Ｂ号住居跡

2、Ｊ６Ａ号住居跡遺物近接

3、Ｊ６Ｃ号住居跡

4、同左ウメガメ

5、Ｊ７・８号住居跡

6、Ｊ７号住居跡遺物近接

7、Ｊ７号住居跡遺物近接

8、同　　左

1、A区中央部土坑群

2、A区北半部土坑群

3、A－J 1号土坑

4、同左遺物出土状態

5、A－J 2号土坑

6、同左遺物近接

7、A－J 7号土坑

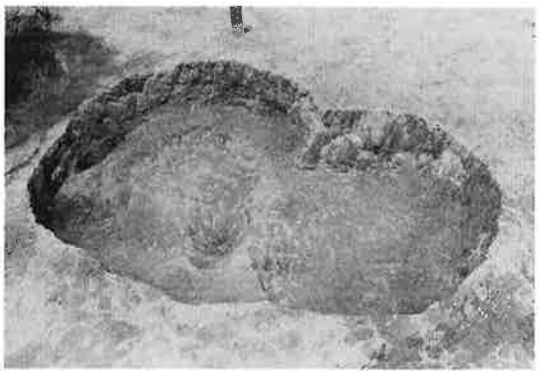
8、A－J 8号土坑

1、A－J 9 号土坑

2、A－J 10号土坑

3、A－J 13号土坑

4、A－J 14号土坑

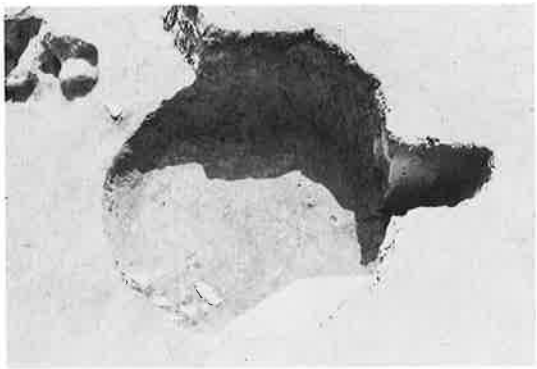


5、A－J 15・16号土坑

6、A－J 17号土坑

7、A－J 19号土坑

8、A－J 20号土坑



1、B－J 1号土坑

2、B－J 2号土坑

3、B－J 3号土坑

4、B－J 6号土坑

5、C－J 1号土坑

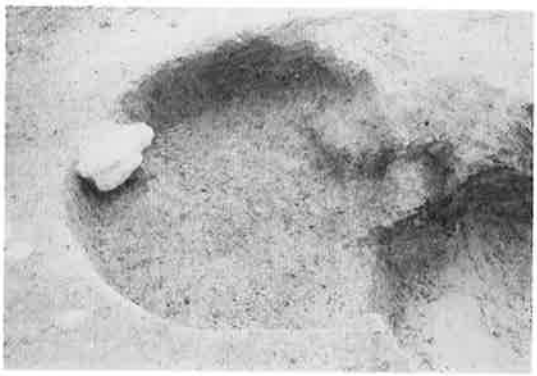
6、C－J 2号土坑

7、C－J 3・4号土坑

8、C－J 5号土坑

1、D区土坑群

2、D－J 1・2号土坑



3、D－J 7号土坑

4、D－J 8・9号土坑

5、D－J 10号土坑

1、1号住居跡

2、2号住居跡

3、1号溝

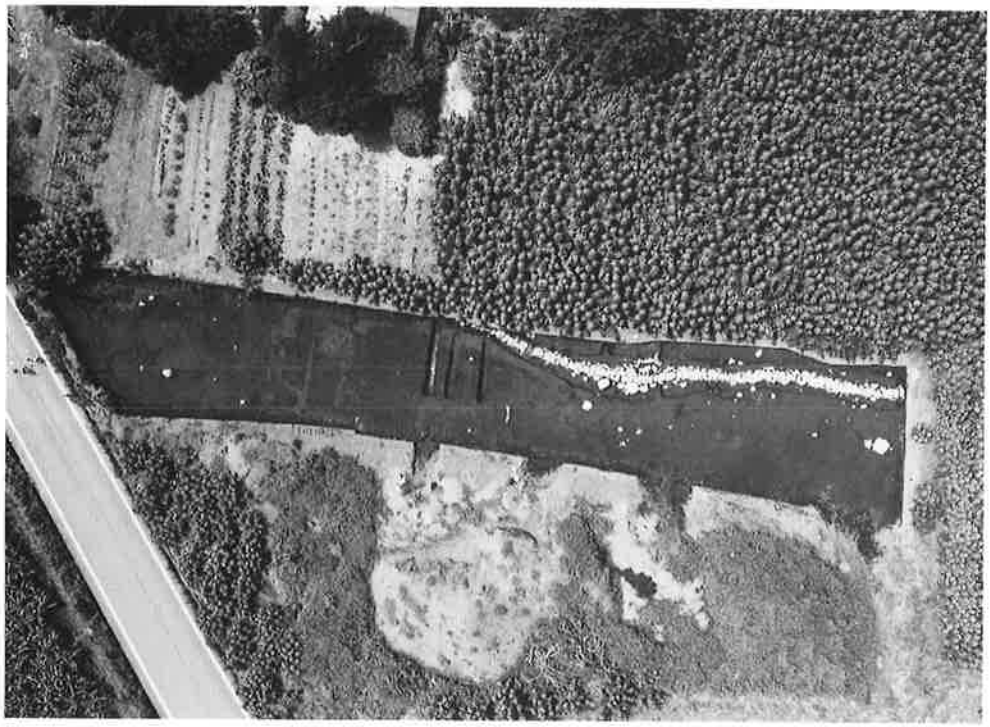
4、2号溝

5、3号溝（C区）

6、同左（D区）

7、採石跡

8、作業風景



1、E区全景

2、4 号 溝

3、同　　左

4、同　　上

5、同　　左

小暮地区遺跡群
広面遺跡

平成２年度県営ほ場整備事業嶺地区に
伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書

平成４年３月20日印刷
平成４年３月25日発行

編集・発行/群馬県富士見村教育委員会
群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1
電話(0272)88-6111
印刷/朝日印刷工業株式会社